

大頭書
全

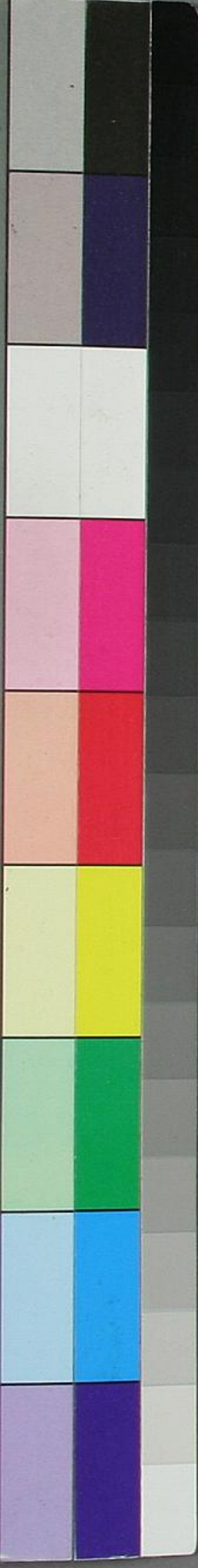
世界國畫

亞細亞洲
阿非利加洲

卷之一

件列

柳田文庫
文庫11
A1836
1



文華
A



48. 4222

文庫11
A/836
1

明治二年己丑正月初冬



明治四年羊未二月再刻



48 7225

世界國盡序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
キハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ヌ可シ然ハ則テ天
下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知
愚ニ係ル一推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
盡ノ著アルモ専ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
及ヒ合衆國ヨウヨルク州ノ士人アルプランク

序



氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヲ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ歟カラス
然リト雖也事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スルハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラシ何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カシ
祇合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ毎戶每人其教育ヲ被ラ
サルモノナシ例ヘハヨウヨルク州ニ於テハ
闔州ヲ九千區ニ分チ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但シ五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ
此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

序

二

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人
間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ
為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ
風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コ
レヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ
近來ニウヨルクニ於テ人物ヲ選舉スルニア
リテ其時入札ニ投シタルモノ三十餘萬人ナ
リシ奉行ナドノ選舉ナラン蓋シ爾後三十年ノ星霜ヲ過
キナハ此ノ入負ノ大半ハ物故ニテ継テ其身今

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内
ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教
ヲ受ル兒童ナシ

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國
體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ
此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナ
ラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル
者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體
裁ヲ寛大ニスト雖正議政其法ヲ巧ニスト雖

正治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實切ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハサルヲ遠シ
後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻サルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ナラ
シ先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ愛孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ
前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導
シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此
教ニ亞テ切ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ
リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増
加スルト毎年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ

去リ小説ニ惑ハスレテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ違シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ
及フ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
八月

福澤諭吉 譯

九例

一此書は世間ニ何ノ翻譯書の風ニ異ナルとも
其實ハ皆英吉利亞米利加ニ開闢シタル地
理書歴史類を収集シその内より肝要の處ヲ
け通俗ニ譯シたるものなり私ノ作意ハ毫毛
交ハズ

一西洋ニハ年号ナシ其國の宗旨の改りたる年
を元年と定め明治二年ハ彼千八百六十九年
ニ當ル

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億
 百億と十倍つゝ此位より次第に計へ上るな
 り
 一英の一里ハ千七百六十ヤ何ともし一ヤ何
 としは日本ハ三尺少く余あり故に其一里ハ
 日本乃十四丁四十間余に當る英の地理の里
 法ハ少く長く其一里は二千二十五ヤ何と
 當る即ち南北緯度の一度を六十に分ち其
 一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀て畧その音
 に近き縦文字を當るものとすれハ古來翻譯者
 此思々々色々々乃文字を用ひ同ト土地より
 二も三も其名何と似たり又或ハ唐人の翻
 譯書を見て其譯字を真似したるもの有りあれ
 ハ唐ハ文字の唐音或以て西洋ハ字音に當た
 る也へ唐音を明に學者達ハ分るべけれ
 とも我々共々を少くも分る故に此書中
 ハ勉て日本人に分り易き文字を採用す中
 九例

せり實ハいろは計り用ても濟む事苦かれ
とも本字を記して照へ假名を附ルハ記憶を
ふ便利なり譬へは南亞米利加此べ以り也
ふとの小處へ平柳と記し可きは勘平の平此
字と揚柳此柳の字なりと憶ふ記しておぼへ
易し固より論とふとの遠なり辨輕乃辨の字
は辨慶の辨の字なり論類の論の字ハ論語の
論此字なり大抵此趣向より譯字を下した
れども多くは譯書中ハ普通なる文字ハ無理

ながくも其より用て傍小假名を附しれば讀
者其本字を當ふせむして假名の方を記憶を
一近年までは日本人も英文を讀み得し和蘭の
書のを翻譯せしゆへ地名も蘭人の唱と
英人の唱と同しゆへ由り譯字の相異
ありものあり譬へは昔日蘭書の翻譯文中
窩々所徳禮幾と記したるものを今ハ塙地利
とひ古の獨逸を今ハ日耳曼とひ小が如き

凡例

七

ハ事實ニ於テ變ラズルナリ唯近來ハ英書流
 行由ヘ英の唱ニ從ふのみ
 一地名人名海河等の名ニ其文字の上下ハ
 の如き印を附テ區別セリ
 一書中はひふへほの假名文字ニ圓キ濁点を附
 けてはひふへほと記シテ何れハ何レハ何レ
 へへほも何れ又ばひふへほも何れ
 のべくけふも何れりゆづほの音なり



大目録

一の巻

發端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の巻

阿非利加洲

同頭書圖入

三の巻

目録

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の卷

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の卷

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の卷

地理學の總論

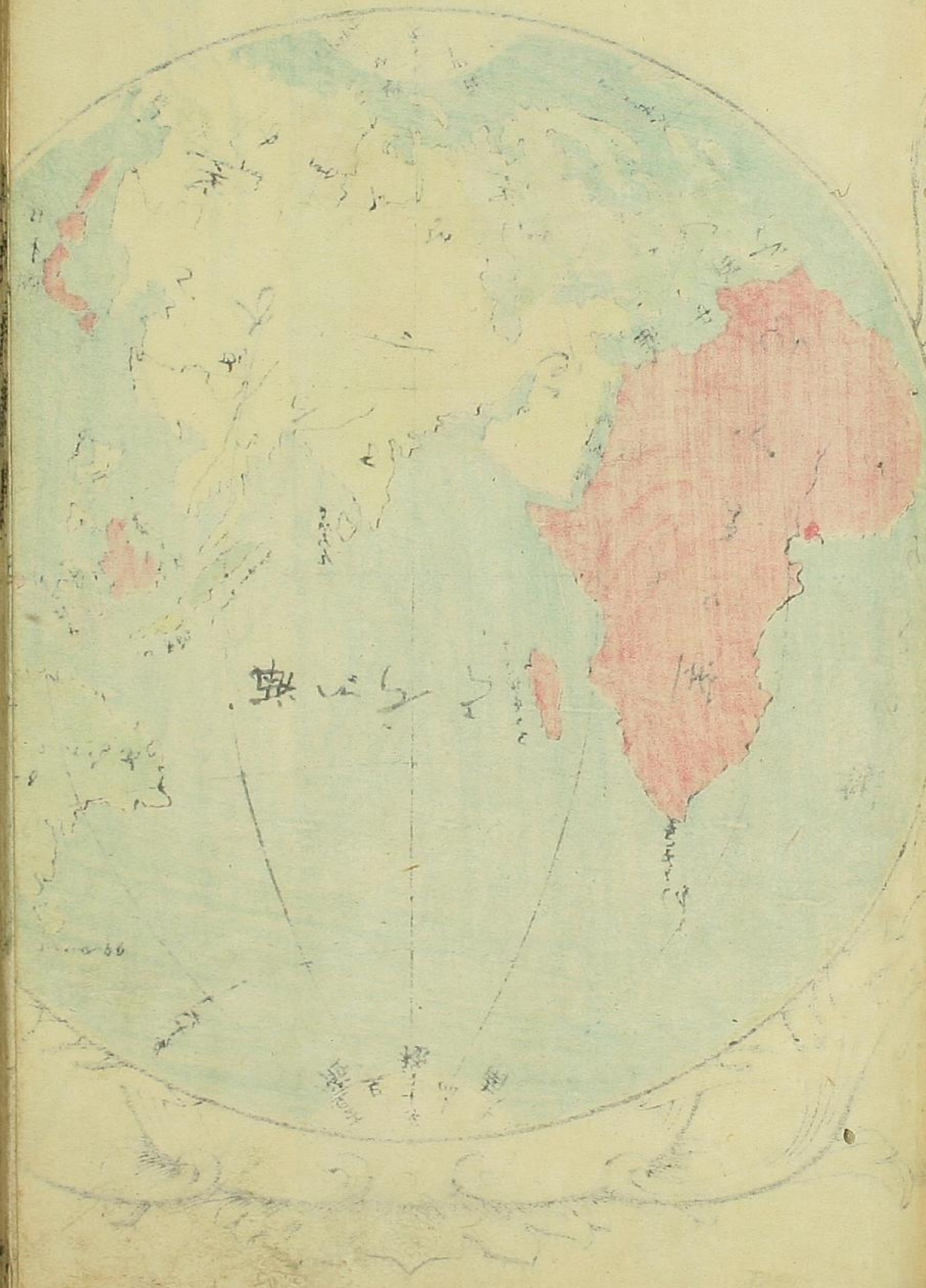
天文の地學

自然の地學

人間の地學

目錄終

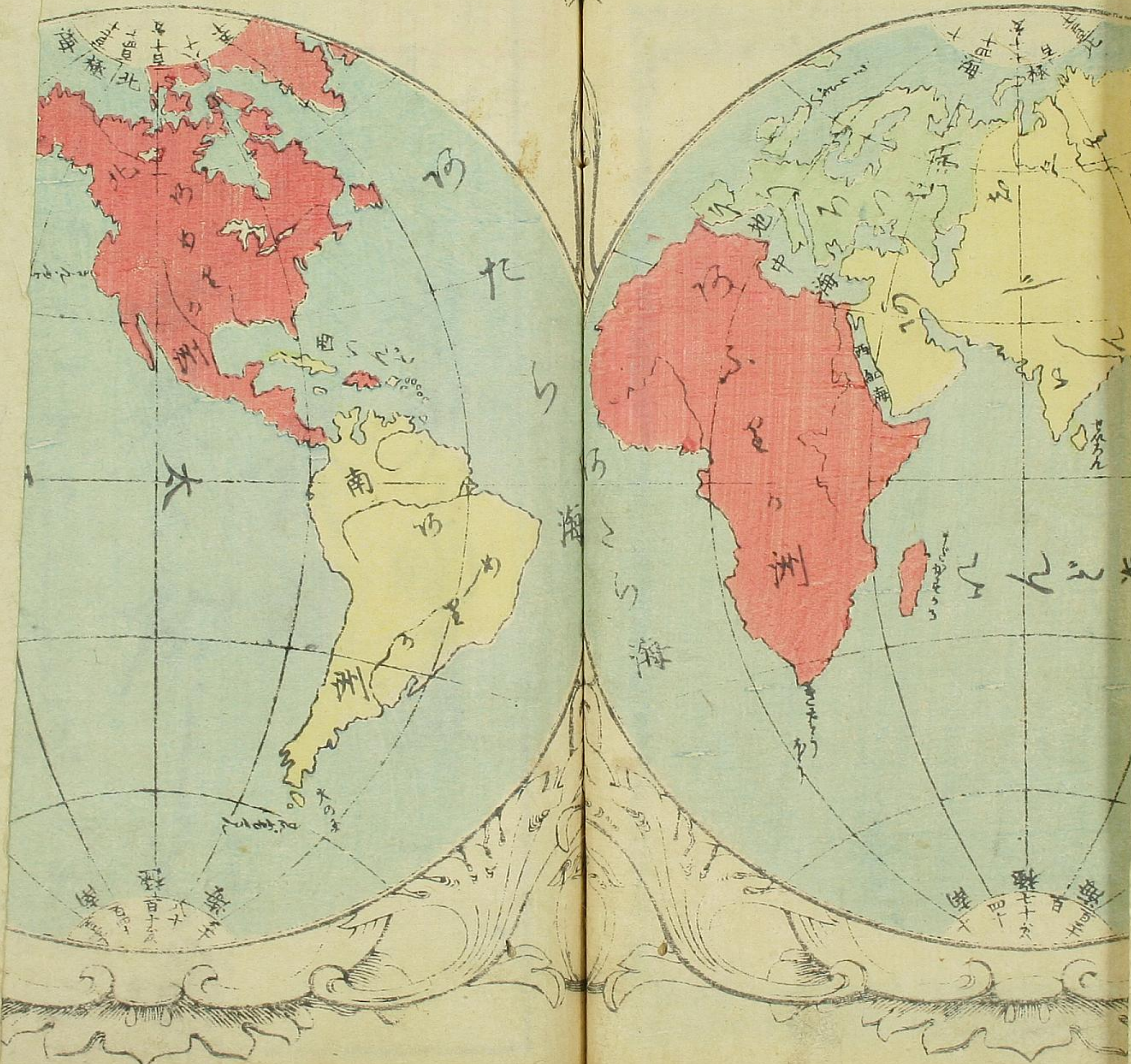
東の洋世界



此の洋世界
 東の洋世界
 西の洋世界
 南の洋世界
 北の洋世界
 東の洋世界
 西の洋世界
 南の洋世界
 北の洋世界

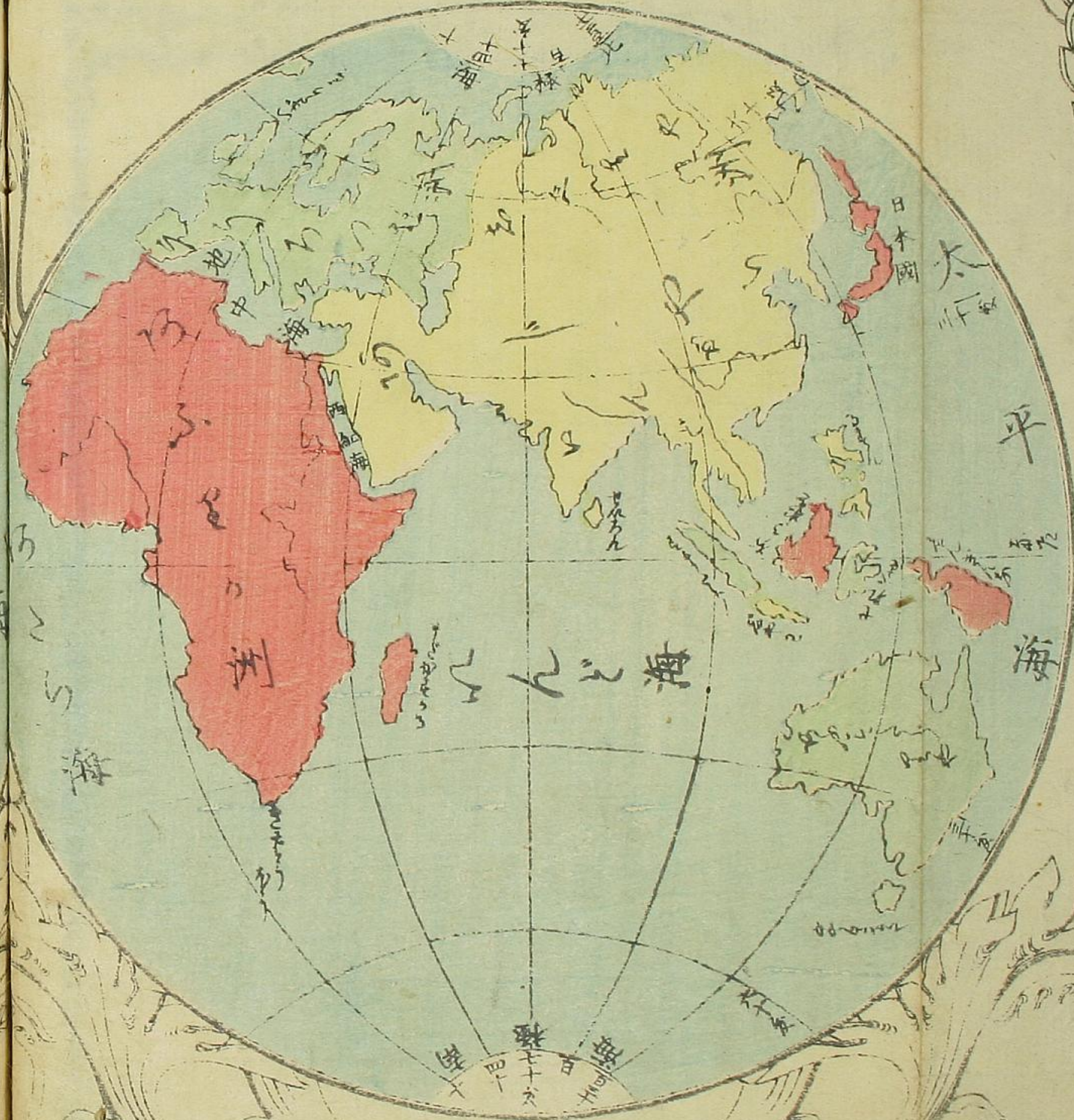
世界半

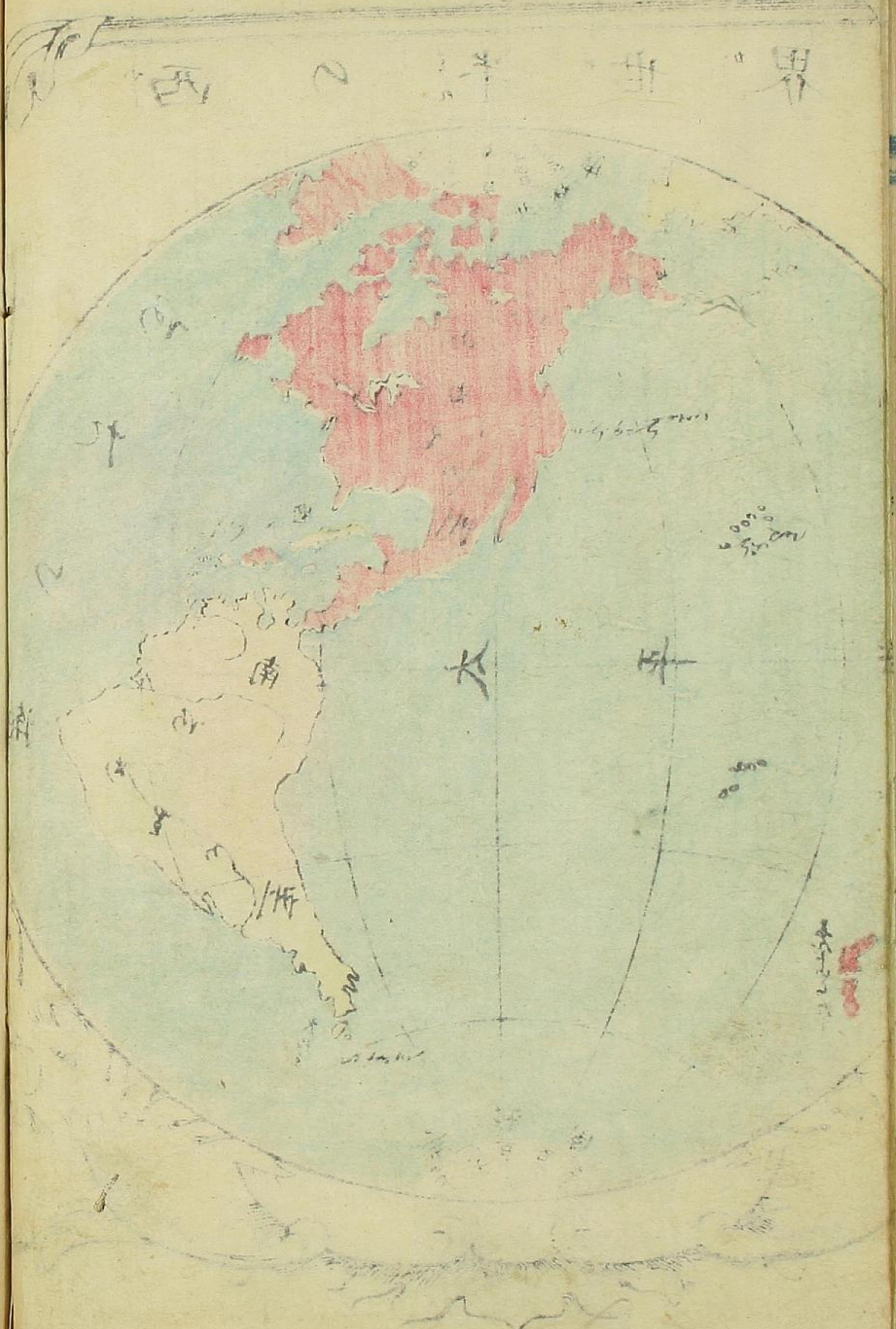
西の半



西の半世界の界

東の半世界の界





世界の事
 世界の廣さハ英吉利の
 利の一里四方を一坪
 不立九二億の坪
 數の三分ハ海小
 一分ハ陸大
 人の住ハ陸の廣
 さハ五千萬坪あり
 但一英吉利の一里

世界各國盡

養端

世界の廣さ一萬

を不わしといふと大

千一分けし名目

世界各國盡

ハ日本ハの十四町ハ四
十三間ハ不當ハ
世界中ハの人の數ハ
九十億ハ不近ハ一國ハ
の七風ハ不由ハて面色ハ
も同ハトからを知愚ハ
を一様ハあらは其區ハ
別を五種ハ不分ハち世
界中ハ不多少ハの割合ハ
左ハの如ハ一

亞細亞ア河非利ア加歐ア
羅巴ア北ア南ア米ア
利加ア一ア課ア紀ア一ア
亞ア洲ア大ア洋ア海ア別ア
一ア南ア北ア一ア

歐羅巴オの種オハ色オ
白オ一其數オ四億オ二オ千オ
萬人オ
亞細亞アの種アハ色ア
少ア一アくア黄アあり其數ア
四億ア六ア千ア萬ア人ア
亞米利加アの種アハ色ア赤ア
一ア人ア種アハ色ア赤ア
其數ア一ア千ア萬ア人ア
阿非利加アの種アハ

名稱ナなるナ之ナ北ナのナ風ナ
俗ソ人ソ情ソ一ソ変ソ変ソ北ソ
一ソふソ一ソなるソ一ソ様ソ
一ソ以ソ知ソ一ソなるソ人ソのソ
一ソなるソ甲ソ乙ソ一ソなるソ

色黒一其數七千萬人

大洋洲に住る島

人ハ茶色あり其數

四千萬人

亞細亞洲の事

亞細亞洲の土地の廣

さハ千五百五十五

萬坪人の數六億人

五大洲の中ハ一

當の得人

水は支那に格

畜子ハ庭の事

始は筆

略は志

ちんの大洲あり



廣き亞細亞洲の内

て人の種類も色々

ハハも蒙古人

の種として其種族最

も多し或ハこれを

亞細亞洲

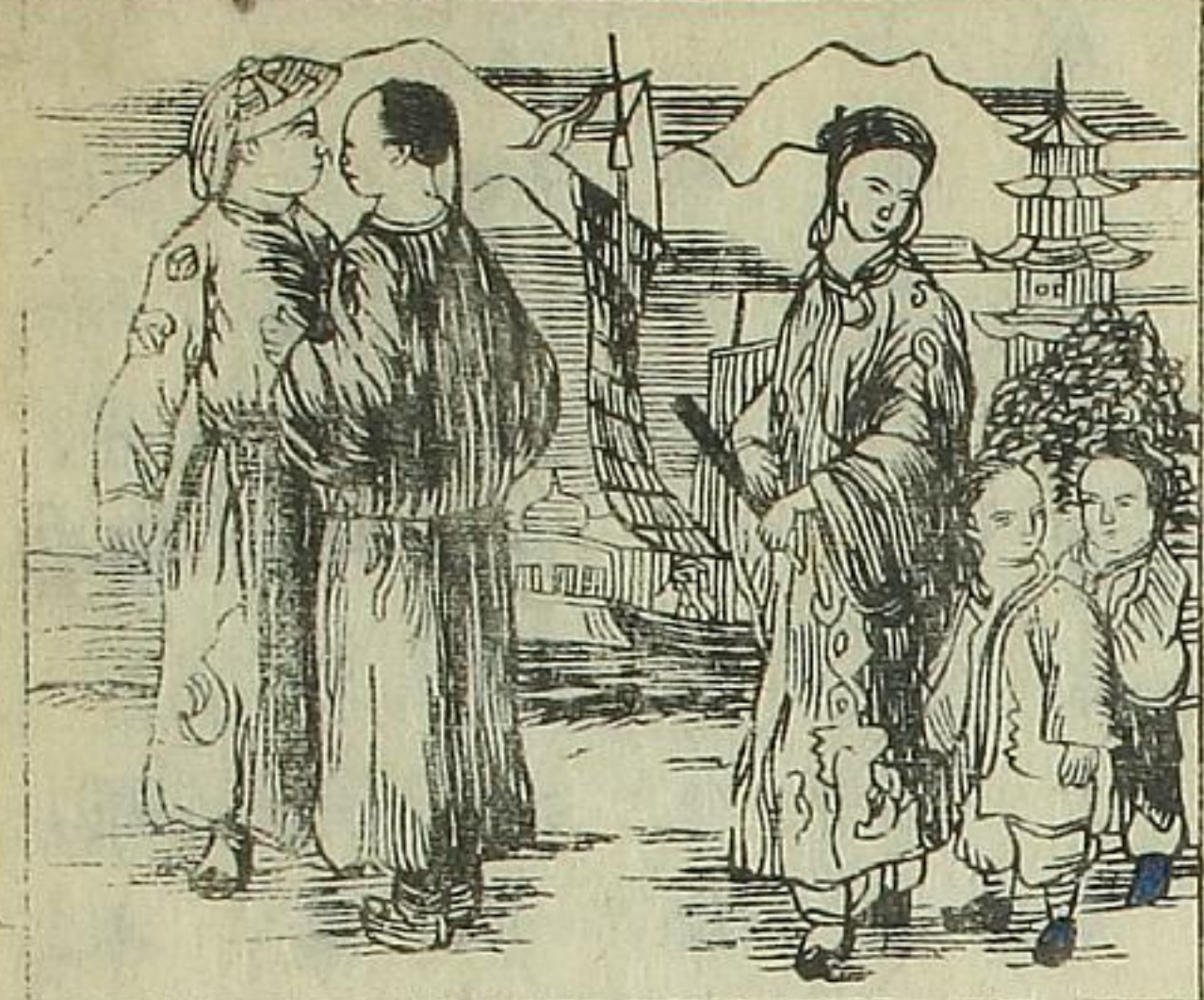
此地球の北よは

西に先日ハ西あり

し水は帰る

乃海環は端は

亞細亞人種といふ
 氣候も北方志邊り
 屋の方ハ甚ど寒く
 天竺の南ハ至もた
 赤道近く甚だ熱し
 禽獸草木もこも小
 准トて異あり
 支那の廣さハ五
 百二十萬坪人の數
 四億都の名を北京



といふ國中の男子
 ハ皆け一坊主あり
 始て見る人ハ甚
 とろしく思わろ

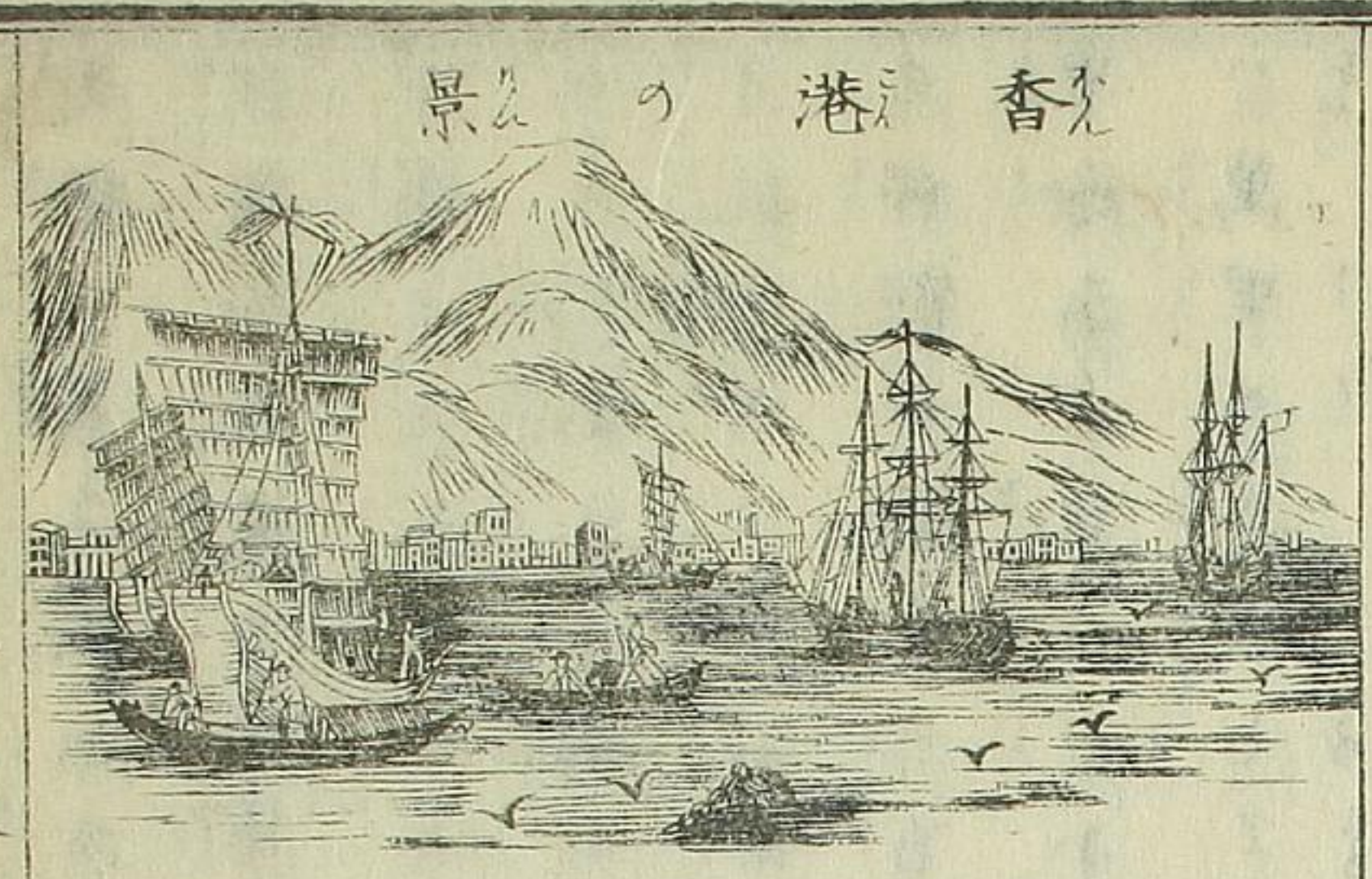
倭代ありた大平海
 の西は才亞細亞海の
 東あり。我日本は始と
 西のこゝへとて
 乃國と云ふなり

支那ハ亞細亞北
 國人は杉をくま北
 くみありるよ印度北
 魯西亞東のこゝハ大
 平海濱戸を海とす

支那の産物ハ絹布
 木綿瀨戸物其外象
 牙細工等小間物多
 殊ニ茶ハこの國
 の銘産ホテ毎年外
 國へ積出モこと凡
 一億斤ハ述シ
 不歐羅巴亞米利加
 小ハ茶園ホシその
 國々の人の用ニ茶

日本國九洲紀前
 長崎ヨリ支那の東
 岸の上海へ海路僅
 三百里蒸氣船ハ旅
 水ハ十日ハ往來を費

ハ支那と日本
 積出モ品々



一、往來歸るに
 南ニオスルニ香港ハ
 英吉利領ハ一孤島
 一、利キ一、新
 高賣銀不名去地ハ

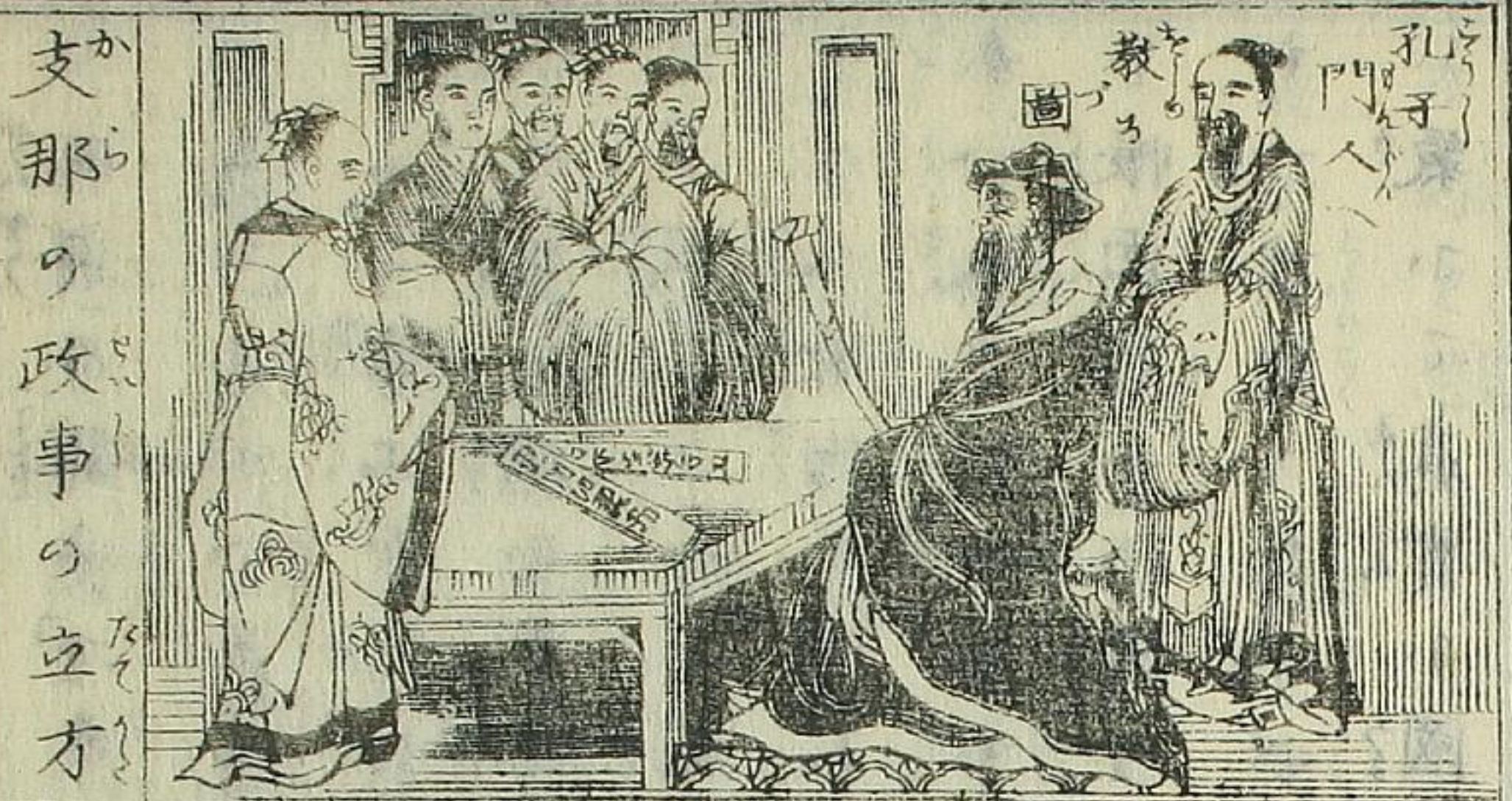
支那ハ舊き國ホテ
往昔ハ大造ナリ事
を成したるものを
北京を南の
方杭州府まで通船
の坂割を長さ三百
里餘あり北の方ハ
八萬里の長城とて
長さ土堤なり其高
さ一丈五尺より三

東洋一以港
支那の物
活活古陶真の時代
あり年以経る
一歳仁義不常

大谷小跨り山を越
へ六百里の長さハ
及べし當時ハ固よ
し修覆も亦く崩き
次第なれども珍し
き古跡として西洋の
人ハ折々見物する
よし此長城ハ二千
年前秦の始皇帝ガ
胡を防ぐたりの築

人情厚く風
中より文の華化
後通古風俗
表し徳を以て

きーものあり
 今より二千三百年
 前支那孔子とい
 へる人其名高き
 學者よて門人も多
 く著作の書も段々
 後の世小傳を支那
 ハ勿論日本も
 この人のことを聖
 人として尊敬せし



支那の政事の立方

初はみくは我より
 向ふ人ありと
 乃高枕暴る
 来りて言ふをせし
 抑へし急改の天罰

適るる学は
 天保十二年癸亥
 和が起し唯一戦
 和が友と和睦
 償は洋銀一百万

ハ西洋の語よども
不ちくといへるも
のふて唯上小立つ
人の思ふ通小事を
ふと風なり也一國
中の人皆信小以ふ
奉公人の根性小
帳面前さへ濟り
一寸のさもい
氣ふて眞實小國

交の港、故より并
なきし、愚なる無智れ
民理し、あることなり、兵
端、以て安し、井く弱き
は、我ひき、は、今

の爲を思ふ者、さく
遂小外國の侮を受
るよふ小あをた
あり、既又天保年中
英吉利小打負しと
さも償金を拂ひし
上小香港の嶋を英
吉利小與へ廣東厦
門福州寧波上海五
所の港を無理小開

の、さく、さく、成行
の、さく、さく、憐
亞細亞、北南、面、海
、臨、印、度、地、西
と、東、之、區、別、し、西

うせらるゝ其後始
終外國人かふとつ

けらるゝ

○前印度と後印度

とハ鷹寺洲といふ

河を以て界とせ

此河の畔ハ阿羅波

婆土といふ釈迦如

来の震地といふ今ハ

ても毎年諸方より

五分ハ後印度及東の分

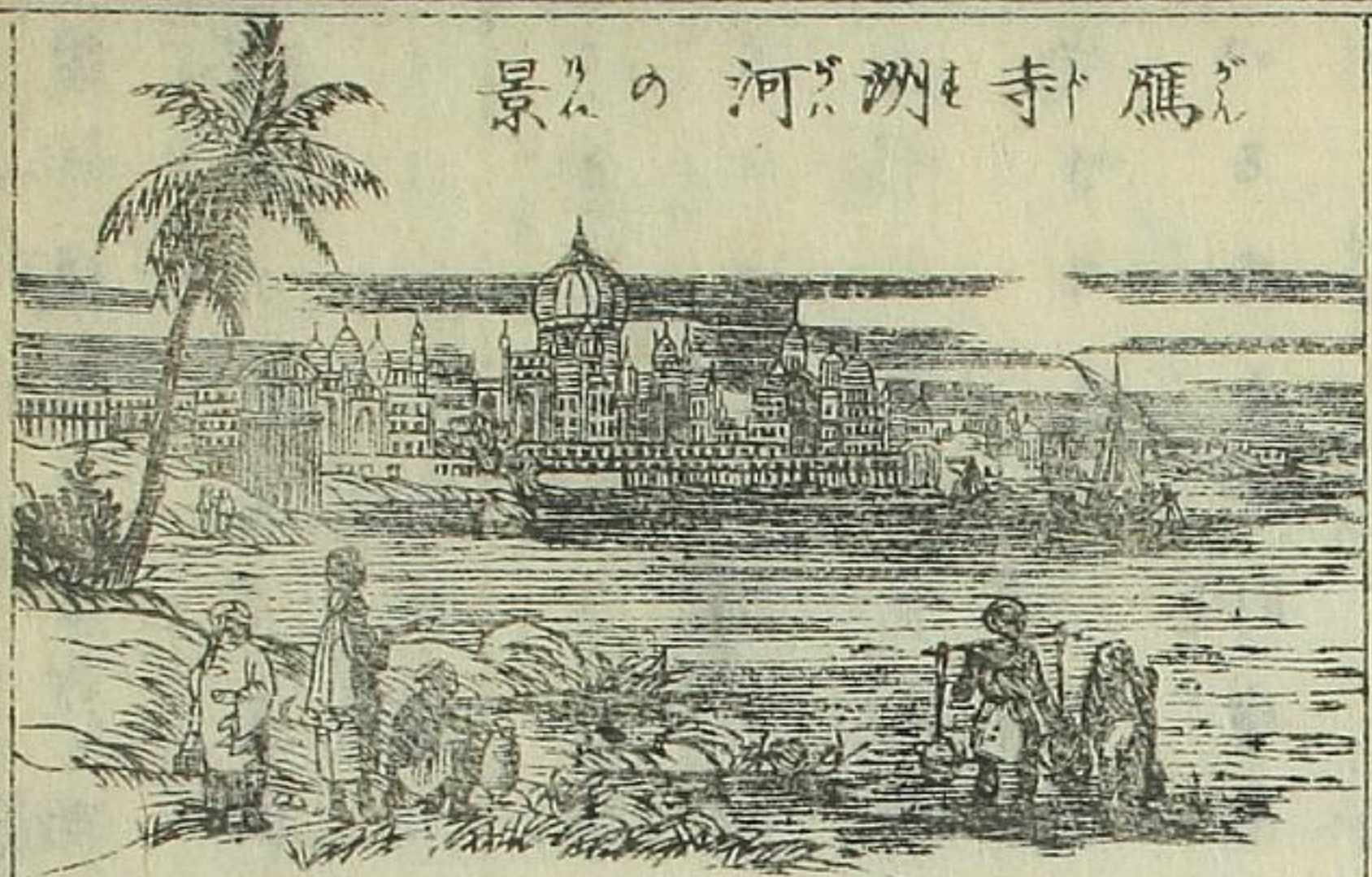
五分ハ前印度五分ハ

高麗國ハ暹羅

安南及留藩玉其又

ハ西慈國政府を

鷹寺洲の河の景



参詣の人二十萬人
の餘りといふ

も一玉其水と人

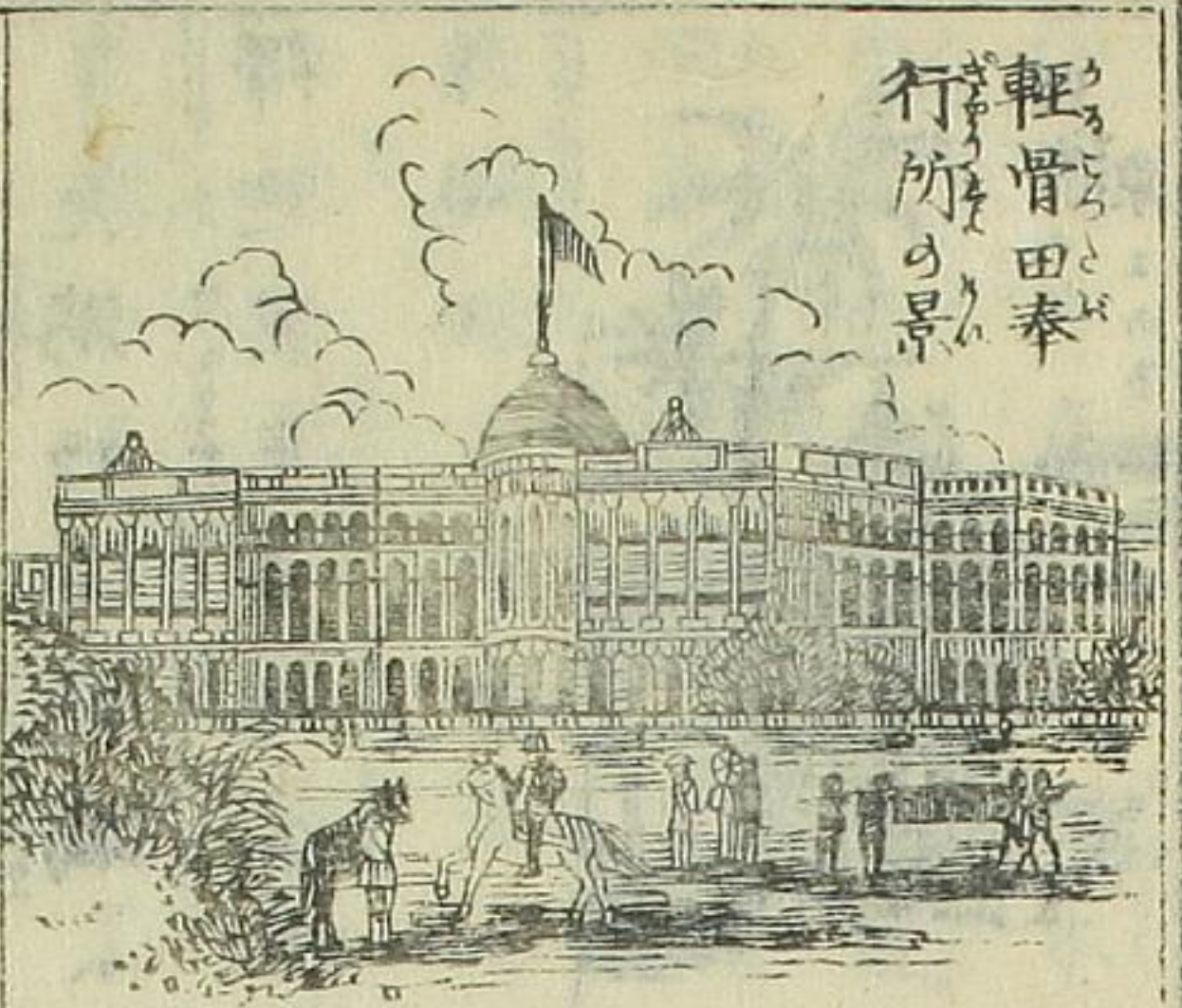
氣陋しく又孝た

西洋人の悔歎

計ハ孝暹

羅ハ厦留滿のあり

後印度のこゝに西
洋人ハびんどまた
んといふ大抵殘ら
む英吉利領あり唯
其北の方ハ獨立國
と唱へ英の支配を
受ざりも二三國
のりんと前印度も
西の方ハ英の支配
あり



輕骨田奉
行所の景

滿落花の南の端ハ
新賀堀といふ小島
り、英吉利領の港
にて諸國の船の立

下よりみまると長
北滿首花、汝磨
多良嶋とあり對し東
西僅う二千餘里間
此海は清首花の

瀨戸と名付し茶は乃
船の往来ハ略しく
際戸ハ此をて印度及海
北、向し雜糧のハ海
深くハ免ハ小粟の所

寄る所あり
後印度の南の端
西論といふ島
同トく英領
釋迦誕生の地あり



の東岸に拜都邦
、輕骨田英吉利の
惣奉行印度北方を
交りし軍艦商船
数多く吐細豆法玉と英

印度の産物ハ材木
米麥砂糖蜀黍麻藍
烟草胡椒阿片黄金
鉄銅珠玉の類且こ
の地ハ春夏殊冬の
差別あき暖國にて
色々珍らしき菓實
多し獸類ハ獅子
犀象虎又恐ろしき
大蛇蟒なども山ハ

吉利に威勢あり
印度に傾地と
印度に西の國と
河英賀仁漢丹土苗

居カ



獅子 喰ふ

○邊留社ハ舊國オ
もとも元來人氣粗
く政事向暴虐小

在漢丹、
の鹿留知漢丹、
國の名、
依糧、
進、
邊留社、

て下々の取扱よ
一からさる中、
の力次第小衰、
時又至てハ文武
も小列立、
十三年、
二十八年、
西亞と戦ひ、
も敗北して、
地を失へ、

世一、
主紀元以前、
白洲、
の玉、
威、

英國と交して英の
士官を雇ひ武備を
整るよあり



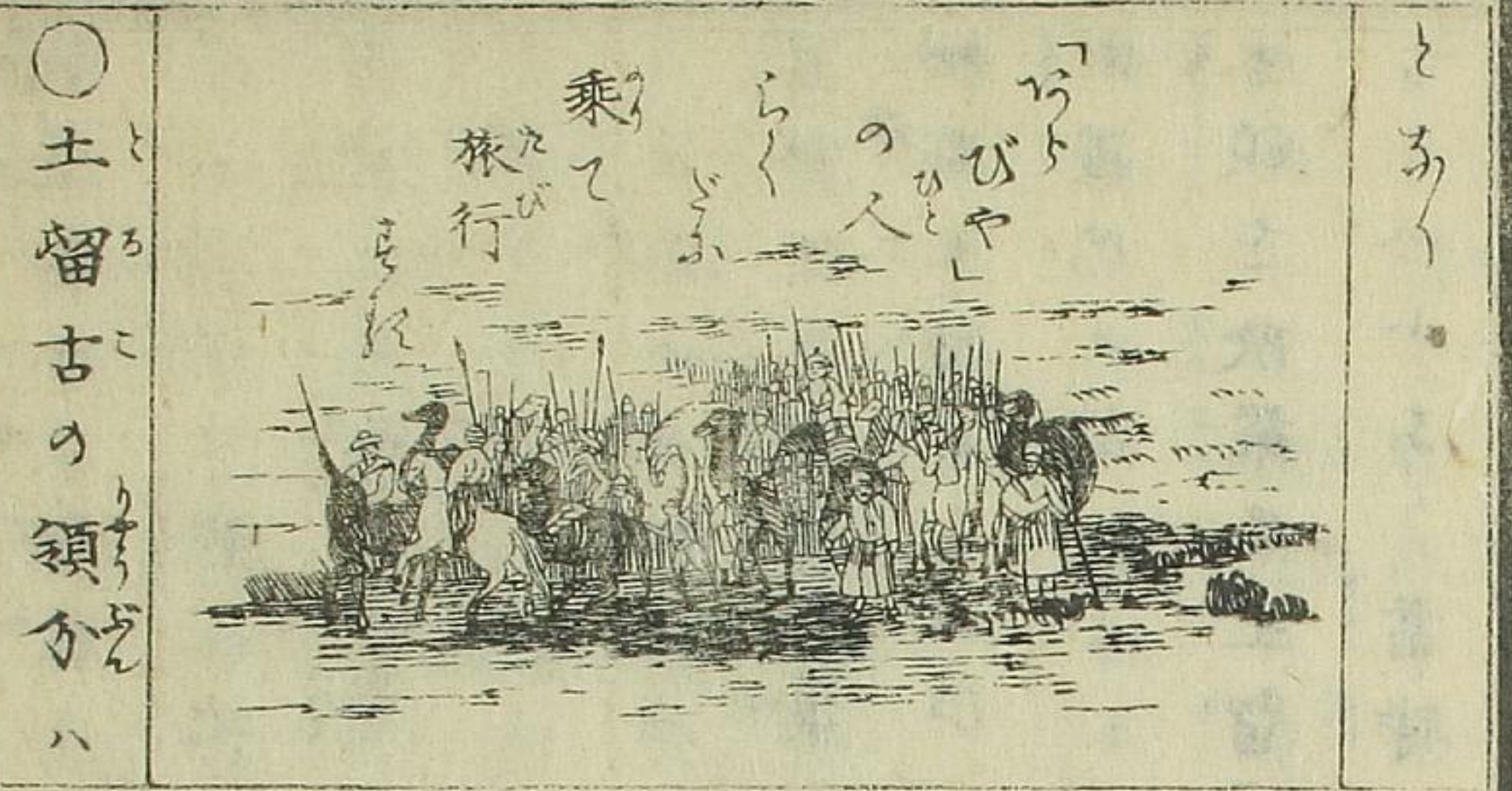
一 次々 二 子 三 傳 承
ト 氏 福 主 物
ア 可 蒙 古 千 改 行
北 千 年 年 明 元
政府 七 夜 改

○ 荒火屋ハ大國オ
もども砂漠として邊
をかく廣き砂原オ
て且氣候ハ熱ク
雨ハ少ク住ハ小宜
一からさる地あり
されども平地ハ
草木よく生長を産
物ハ藥種菓實ニむ
の類多ク獸類ハ

荒火屋ハ大國南ハ
多道南村ハ海邊
西の砂漠廣
荒火屋ハ大國南ハ

馬駱駝ばらくた小こあらび
やの馬うまとてハ既すで小
日本にっぽん小も渡わたて世界せかい
中なかの名馬なまあり此國ここのくに
ハ風俗ふうぞくのよくまて
盜賊たうさく多おほきく國くにの
人々ひとびと廣ひろき砂漠さばくを越こ
て旅行りょぎんするハ大おほ
勢駱駝せらくた之の乘のりて武器ぶき
を携たづへて通行つうぎんする

下した 意い火か屋や海うみ北きたの
土つち留る古この塚つか西にし
互たがひ互たがひ互たがひ互たがひ互たがひ互たがひ
彼か岸き望のぞ望のぞ望のぞ望のぞ望のぞ望のぞ
加か海うみ中なか以も厚あつなる



西にし紅こう海かいのの小こ砂さ漠ばく地ち
陸りく東とう洲しゅうのの北きた峡きやう小こ
高たか見み高たか見み高たか見み高たか見み高たか見み
星せい以も鉄てつ道だう北きたのの小こ
水みづ北きた中なか海うみ互たがひ細こま互たがひ

歐羅巴と亞細亞との
二大洲は跨る地
中海と黒海との間
の瀬戸を以て界と
す故に亞細亞の
方小なる飛地を亞
細亞土留古といひ
歐羅巴の方小なる
本領を歐羅巴士留
古といふなり當時

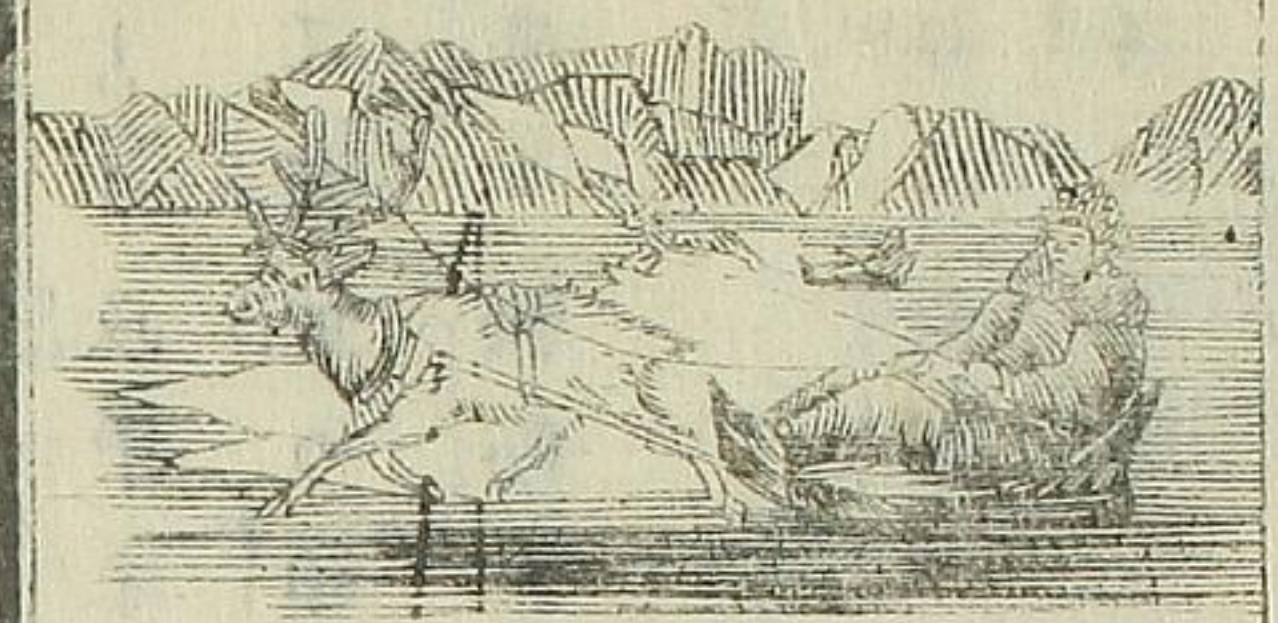
河班利加歐羅巴三
玉塚北中海の海人
北小亞細亞
屋雨仁屋羽禮次多
院惣名要細五出苗

ハ土留古の政事不
取締りて飛地の領
分ハ一度々騒動あり
○魯西亞も歐羅巴
と亞細亞と地續不
て両方小領なり
二大洲の界ハ宇良
留山あり志邊里屋
ハ馴鹿といふ鹿

古くは土留古の
順地多
志邊里屋を亞細亞
北小亞細亞
宇良苗北林鹿

以て馬の代小用
也又一種の犬
こも牛馬の如く
車を引くといふ

馴鹿 橋 引 氷 渡



本島の倭を亞米利加
と遠くむすぶ瀬
戸の水をみる変
那こころひを北を
邊より北極海東西

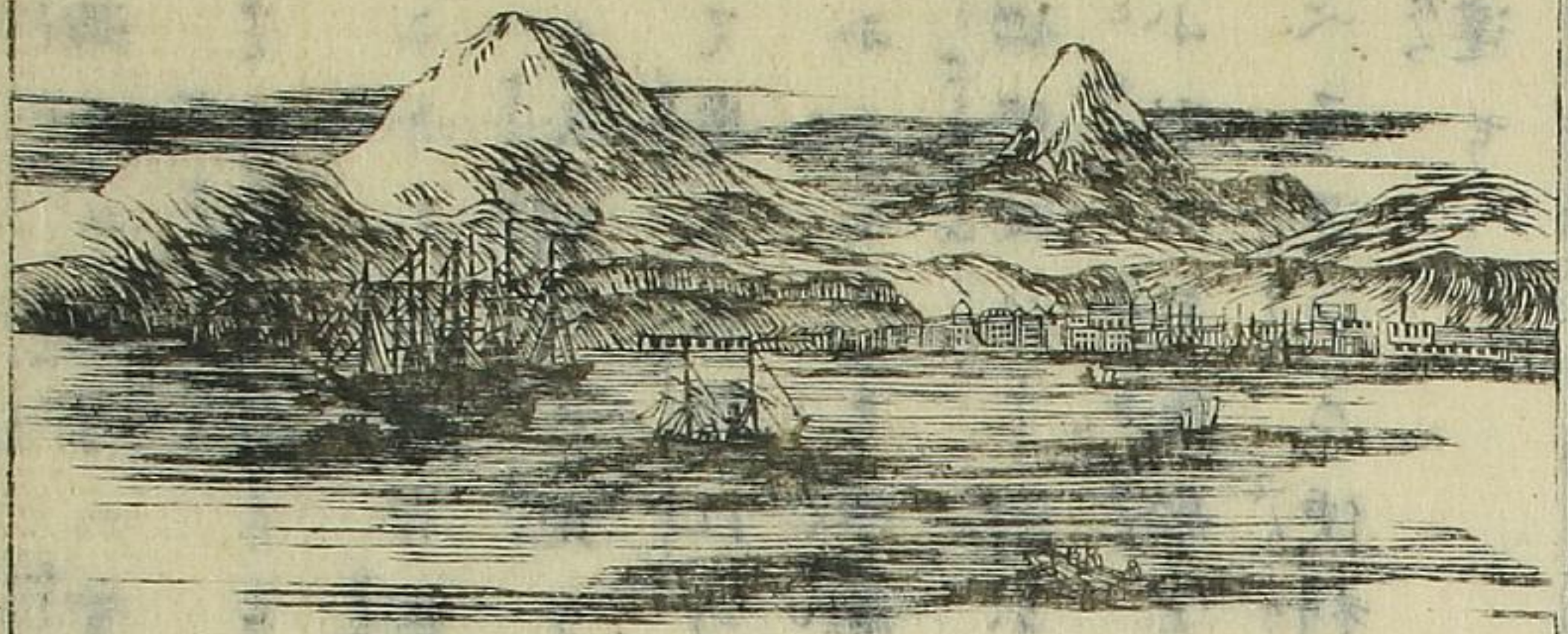
志邊里屋ハ土地廣
けもとも人少く三
百萬人不過を土人
ハ獵を渡世とせし
又宇良留山の邊ハ
ハ金銀の山多く魯
西亞の本國より罪
人を移して夥しく
金を掘出るといふ
志邊里屋の産物ハ

一、五百餘里南北
ハ、石里、魯西、亞の傾
地の廣大ハ世界第一
比類なきありし石
う紀奉行所ハ西

獸皮あり賣買城の
 交易おも皮を以て
 支那の支物瀬戸物
 小易るといふ
 嘉無薩加の港を
 いとろろなきと
 いふこの裏より東
 の方魯西亞領の亞
 米利加へ往來の海
 上甚と近し

玉物より戸保苗漢
 東國筋ふ伊豆久次
 南境の喜阿名田
 賣買城より隣し
 支那と魯西亞の産

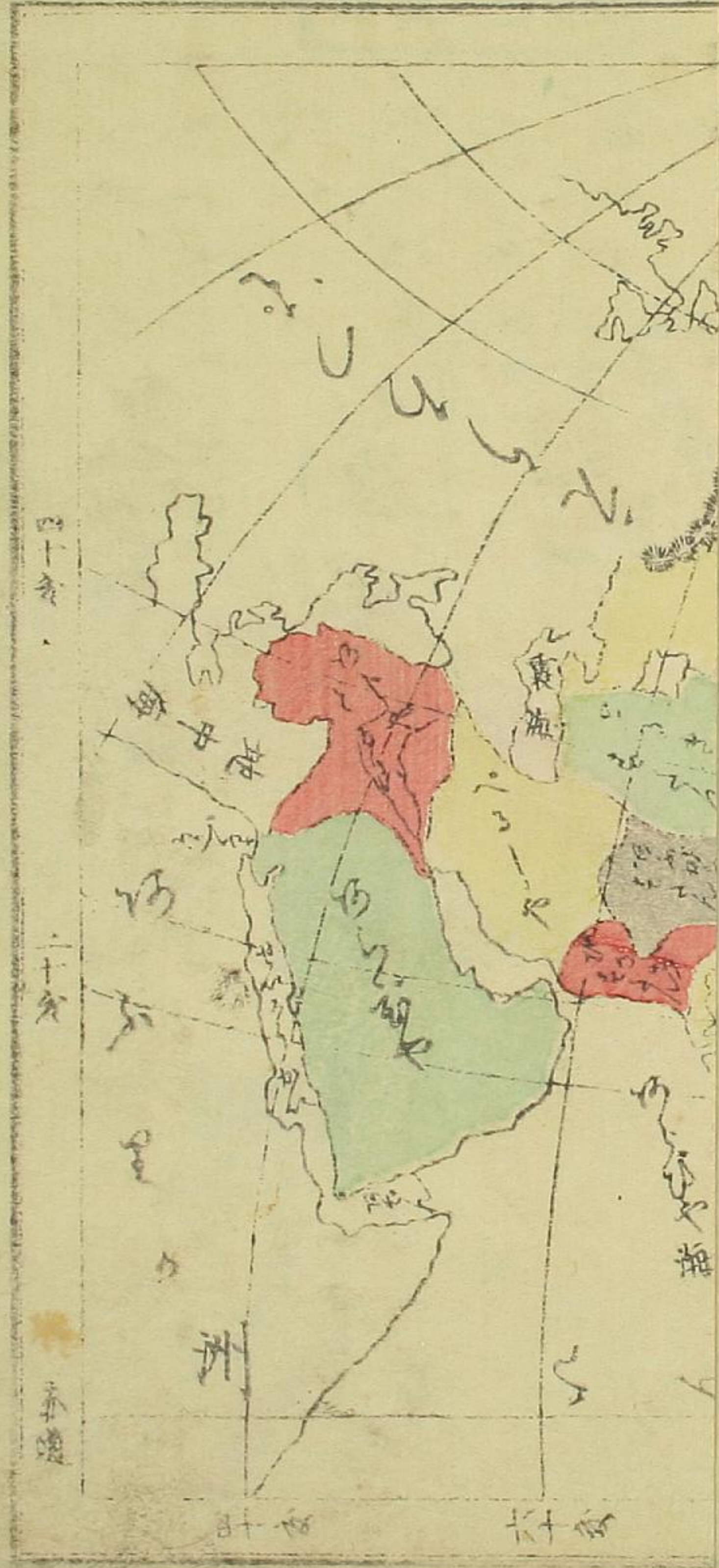
嘉無薩加の景



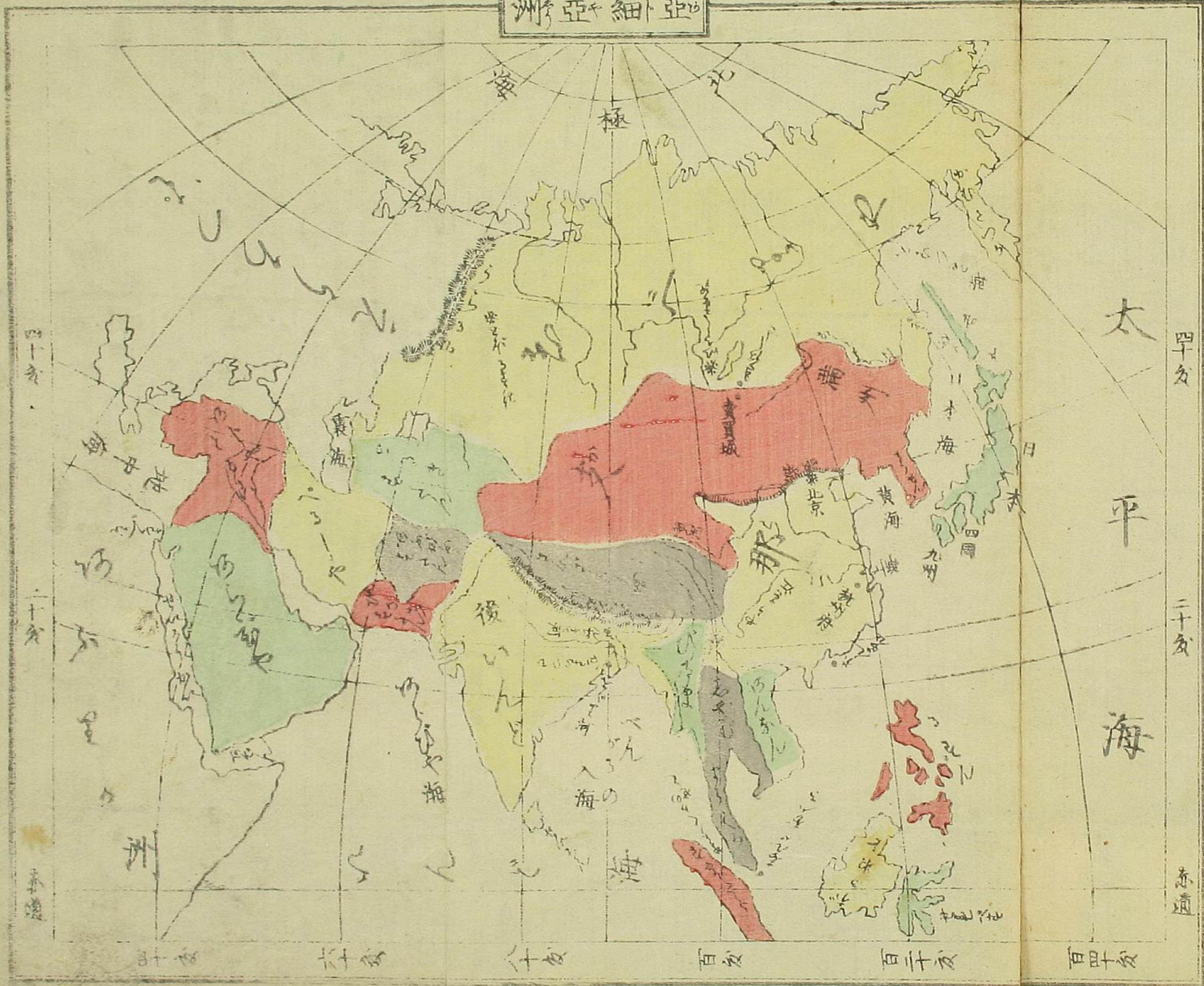
物以互に易る交易
 場末廻り孝思於
 河瓦の建し仁志來
 府我日本以能夷地
 たり煙たふん中。隣

魯西亞の政府ハ昔
地面を廣くも
ること小心掛け近
年ハ又滿州の地を
取て専ら黒龍江の
邊小舟を心軍艦
も始終碇泊一河ハ
小形の蒸氣船を
浮べて運送の便利
を達せり

國東の...
海...
無産加亞細亞
け...
...
...



洲亞細亞



淨心て運送の便利
を達せり

東洋の海

阿非利加洲の廣さ
 八千二百九十四萬
 坪人の數六千一百
 萬北の方小ハ歐羅
 巴人の種もあり其
 餘ハ大抵黒奴にて
 風俗甚だ陋一國々
 小玉とハハ帝と唱
 へて支配の君もは

世界國盡卷二

阿非利加洲
 阿非利加洲乃廣大
 小女大海以東二為南
 北二千三百里西
 東

きども強き者の力
づくふて弱き者を
苦しむる風あれを
争の絶間あしとい



阿非利加の四方皆

此の海を二百里
四方の海岸湾曲を
入海稀きよ河が
なぐ内地の様は
んと船の往来は

海にて唯亞細亞州
へ續く處未洲の
地峽として百里を
その地續けの
この地續けハ蒸氣
車の路にして一日
小往來をべし又四
五年前より佛蘭西
人の目論見にて此
地續を堤割て通船

あり海海岸は道
里西洋人の控系
法とせし武の物
地を廣く人少
少あり人少あり

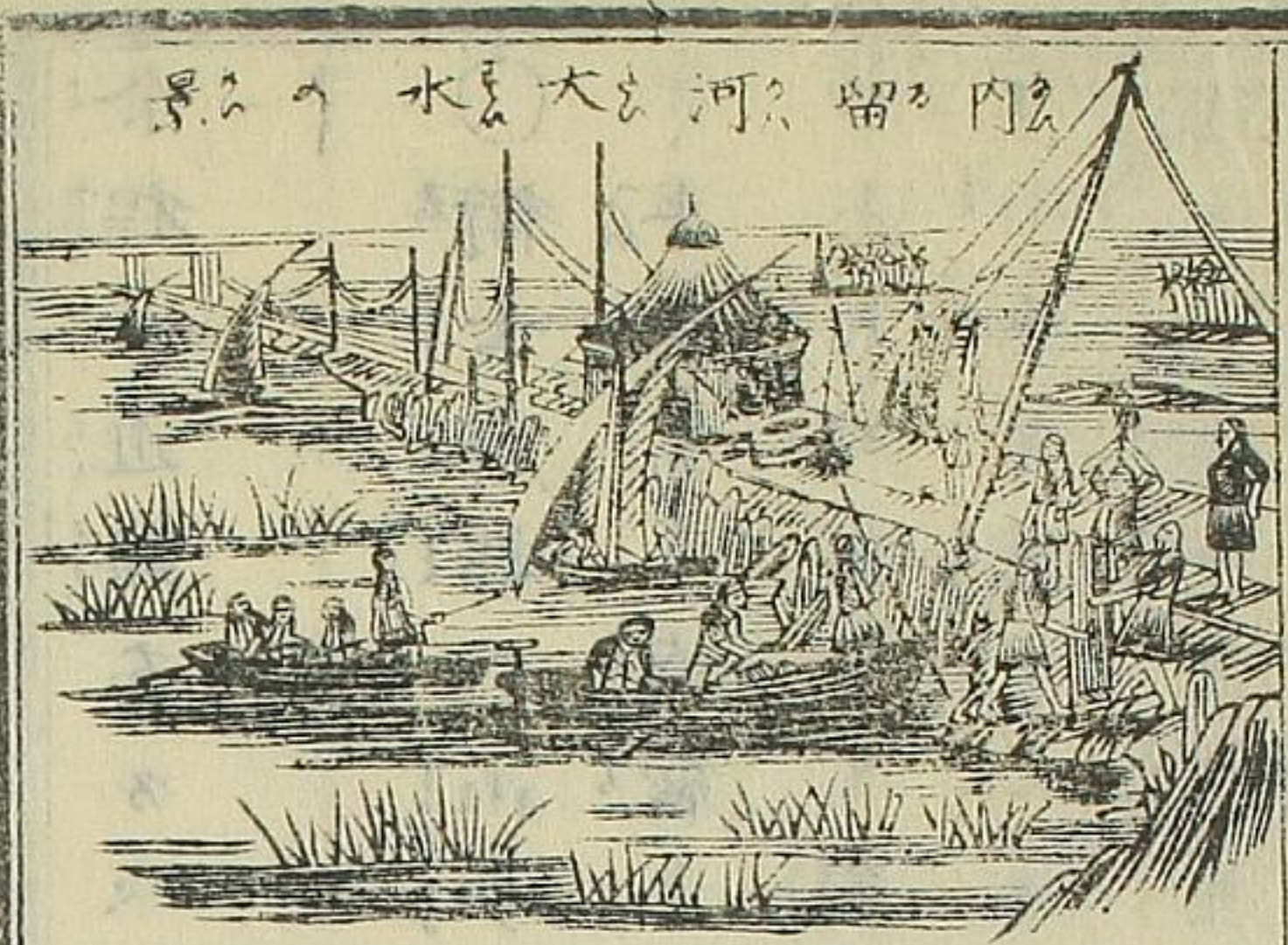
の路を開かんとして
大抵趣向もつき
小舟の通ハ既不出
来りよこの堀割
弥々成就しかる歐
羅巴より東洋の印
度支那等へ航海を
るお喜望峰を廻ら
せしめて地中海と
直不西紅海へいで

又喜望峰より北と東の
首國は能く北と東の
各一極より無智澤
此の二世界を分る國

余程の近路ある
○衛士府都ハ山少
く平地あり内留と
いふ大河ありて國
の中央を流すこの
濕潤な田畑も登り
且折々河の水溢る
其跡ハ却て作物よ
く出来り此國

城計あり「無智澤」
の東にあり「東海」の西
にあり「衛士府都」ハ「河」
利加一の「大國」を分る
る「土」留吉する「支那」

の人大水を以て
豊年の瑞として悦ぶ

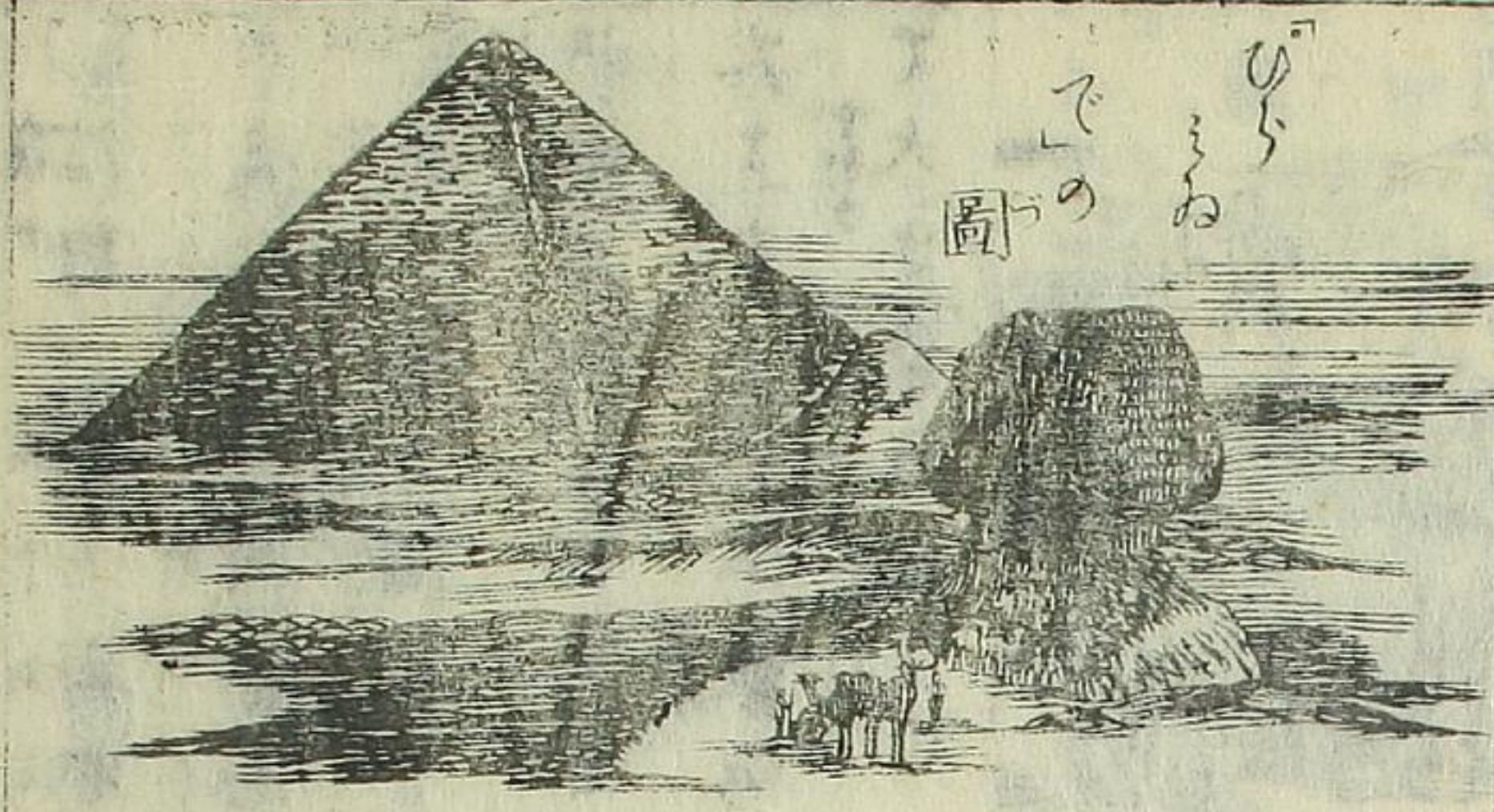


市——土地ありて今
いはまれば獨立國と
東海ありて年
をなす河、田留河この
東は海橋、海士府

この邊ハ不思議な
地にて四時とも
雨降らば草木を養
ふものハ夜の露の
ま時侯ハ熱く砂塵
を吹立人の住居ハ
ハ快からば産物ハ
米麥綿畑草の類ハ
衛士府都ハ古き國

都國の首府あり河
の波は存規ありて
や——を以て法羅
三井天たると四百八十
人石以居る石塔あり

大造りたるもの多
 比羅三井天の敷
 六七十年其最
 大なるものハ本
 文小いへる通
 高さ四百八十尺
 言傳ハ三千年以
 前國王の墓碑ハ建



てーりのやうと

支那の系を以て
 聲を起す古
 跡を以て人の強
 弱を以て流るる
 人々の多きを以て

信聖國の南河
 流志以屋西紅海の
 漸戸以口南東一楚
 本林國印度の海城左
 一尺赤道越え南

○信野ハ衛士府都
の支配あり阿祿志
仁屋ハ獨立國あり
此邊の河ハひんせ
たままといふ獸
て大さ象の如し



好る三義系と「長山以丘」
「河非利加乃」東國物
「長山以丘」の港より海峽
「痛」麻田槽「輕」印度
海以西方より利の海

○麻田槽輕ハ文化
年中より歐羅巴の
諸國と條約を結び
俄ハ風俗改て文武
ともハ盛ありしが
文政十一年其國王
良多馬なる者王妃
ハ毒害せらるこも
る國中大乱の世
とあり一時ハ外國

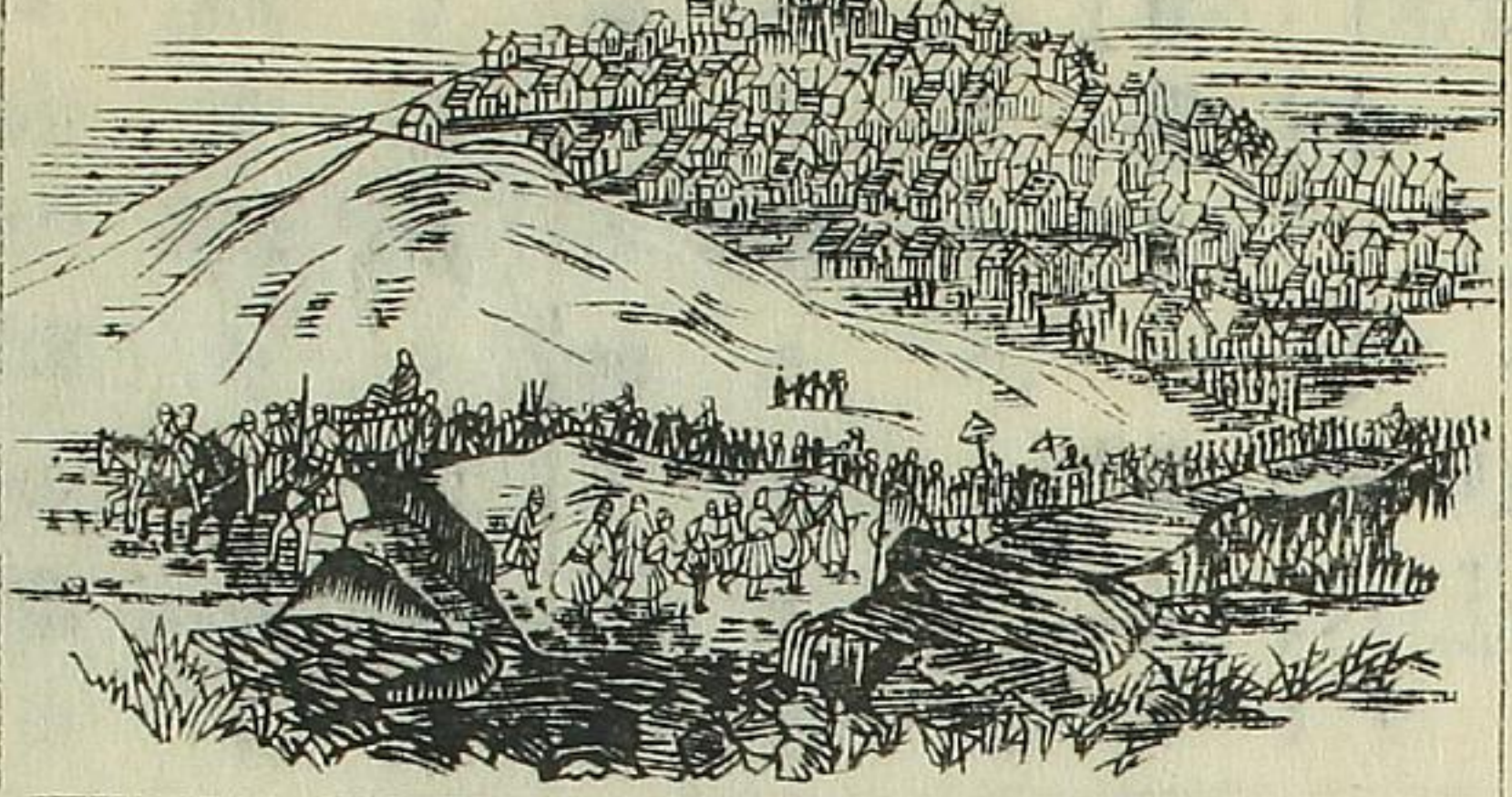
多の島のよみ人氏四
百七十系ハ西洋人
と法身しと音素
系り「解」名「一」國
以并化し近の海

人をも残らば追出
 したる近來ハ又々
 開國とあり外國の
 附合も始り一ふも
 ども以前は戦れを
 國の威光大小衰へ
 一と一全く鎖國の
 騷動りりゆへあ
 一國の都を柳奈龍
 とハハハハハハ繁花

麻田糟輕乃西南
 阿波利加海の陸の
 陸西一廻りは花
 望峰一望ももも
 西海の風一陽多々

ある地ハも何ら

麻田糟輕の都柳奈龍の景



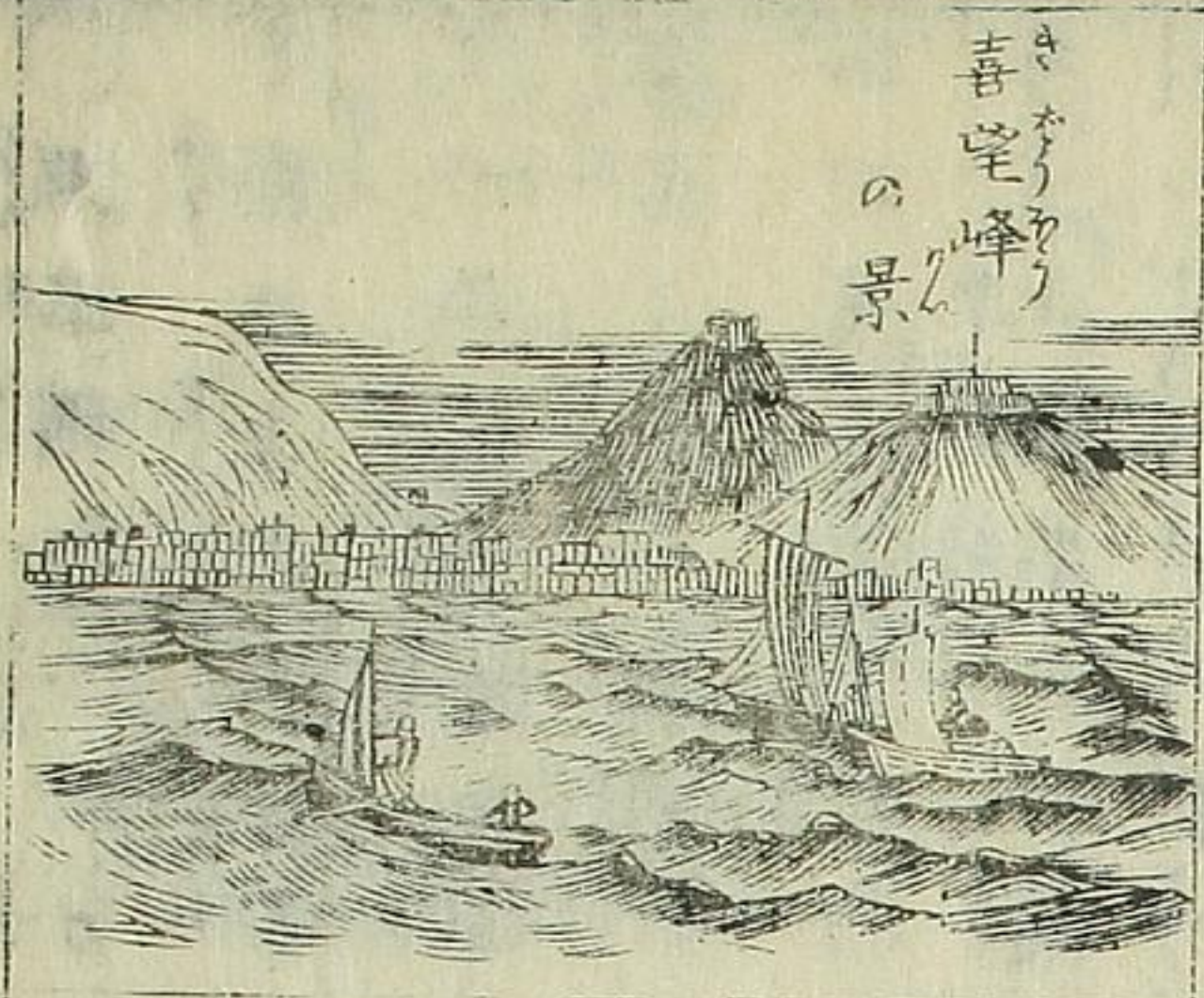
○喜望峯の地ハも

横穀名記年遠をぬ
 英吉利印度地
 舟一舟名長江海
 路の河多羅海越
 一志一水陸也

と和蘭の領分あり
 一が六十年以前よ
 英吉利の支配と
 おもむ故に當時も
 和蘭人の種多し喜
 望峰の港の名をけ
 いぶたをんといふ
 高貴繁昌し産物も
 多し南の方幾天戸
 地屋の邊に住居を

松行の樽取しなく
 さかん森の海毛
 と名舟を以情取波
 たりし名取下し有
 又オトト人喜望峰

る阿非利加人ハ實
 小愚かして人間
 内の下等ありとい



喜望峰の景

乃西の「葎天」也
 屋新部橋上下銀
 名よ理部利在國又
 乃北の二箇國志
 苗良禮思「漸」質

○銀名國ハ二分
 南の方を下銀名
 といひ北の方を上
 銀名といふ其界小
 おいぜるとして大河
 あり上銀名ハ懸
 懸ハ英吉利和蘭等
 の領分なりて土地
 の産物砂金又ハ椰
 子の實の油などを

「宮」
 宮「阿非利加」
 西國ハ「阿非利加」
 様ハ東の國「異名」
 中「一區」の裡
 部「阿非利加」

積出をよ下銀名
 ハ葡萄牙の領分
 此邊ハ獅子多
 く折々人を害を恐
 るべきことあり



乃國柄「一種」
 共和政人「民」
 議事院
 事「北亞米」
 利加「流行」の自由

○古來阿非利加ハ
ハ巧しき風俗流行
し人々を賣買する
ことありこれをも
いふといふまじ
いぶといふ生涯買切
の奉公人といふこ
とあり亞米利加
どハ夥しく人の
人を買込も田畑の

此風俗福を
きふ來一
乃懼く如くなるは
亦もるる一
中海乃山峯
地

働不用て牛馬同様
小取扱ふ風習あり
しが心ある人ハ
色を憐れ救んとす
る者も亦多し即ち
理部利屋國ハ亞米
利加にて志ある人
の申合ふて建たる
國あり近來をこそ
がたり人の賣買も

百國の總名を北河
北利加乃馬苗馬里
伊年一
祿子
一の帝國

大不減トたる
 ○茂祿子の港丹路
 留ハ治部良留多雷
 の瀬戸小臨ミ西班
 牙國ト對岸あり



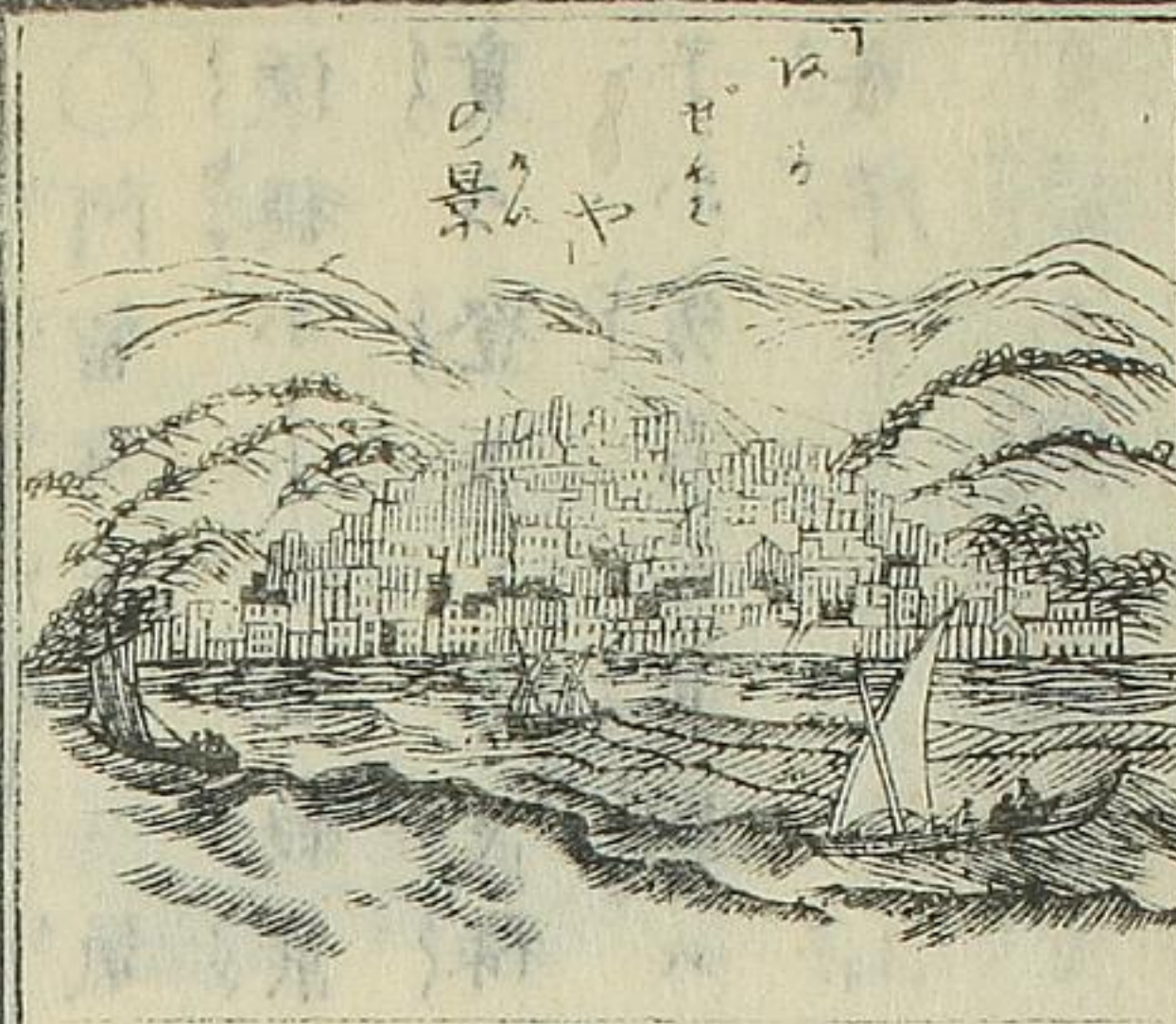
丹路留の景

穀ノ味紀
 天乃惠ハ濃ケ
 若ト那ト東
 農ガ勤ハ
 政事ト以テ

○阿留世里屋ハ氣
 侯穩ホ一ト五穀菓
 實の登ること茂祿
 子ハ劣ラド其都ハ
 海岸ヨリ小高キ山
 の麓小間テ風景よ
 四五十年前ハ此
 邊小海賊多く諸國
 の船を悩セリ我文
 化年中亞米利加之

隣ハ阿留世里屋
 人口二百五十萬
 以テ其國ハ十
 佛茶東西國ハ一
 乃ハ色不羅獨立

軍艦これたため
阿留世里屋を攻て
六萬のららるる償
を取ることあり



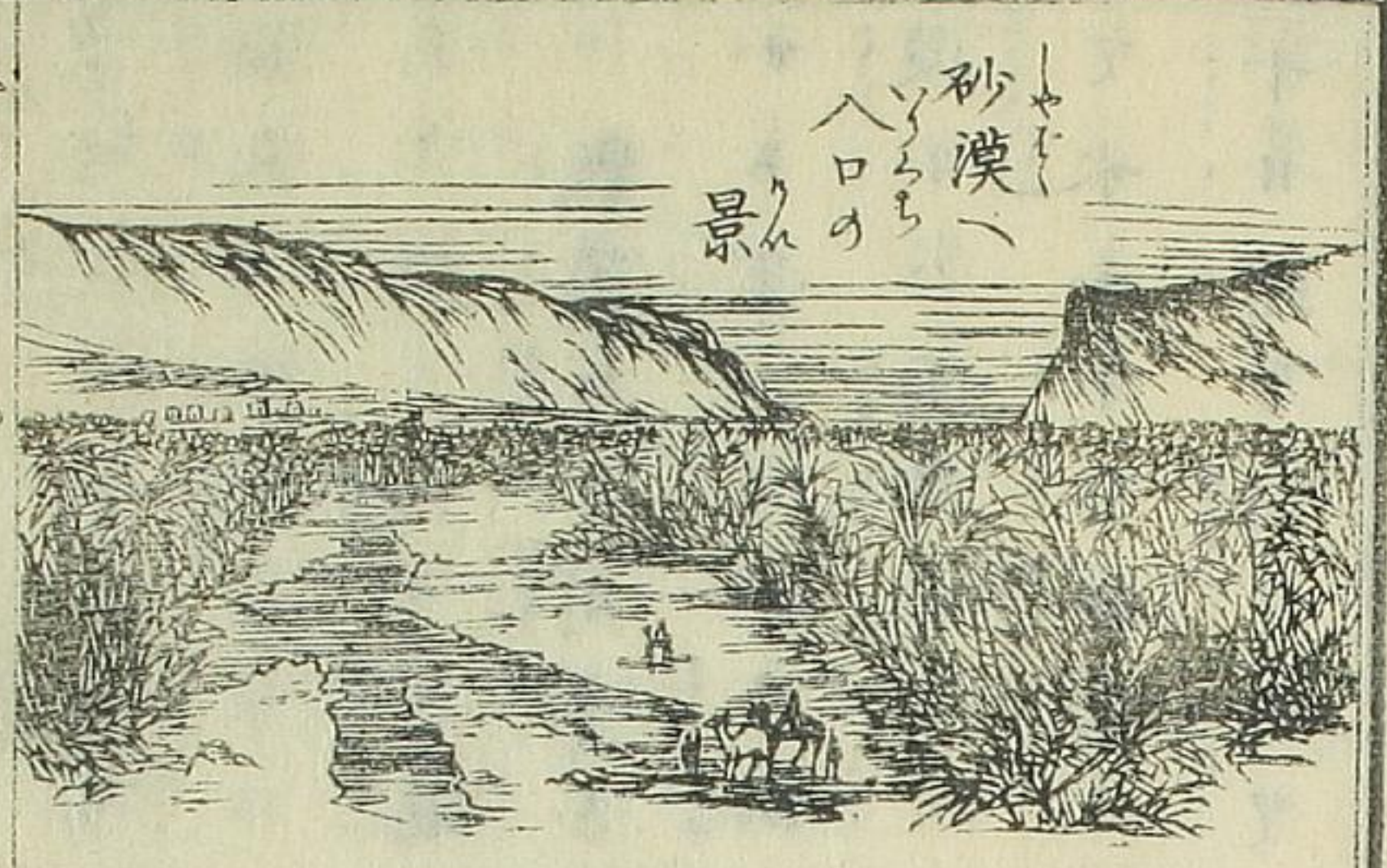
のふえ絶えし佛
よきをききし
行はしむる
威は格く兵士軍
艘數は白く二百餘

○戸仁須戸里堀等
の諸國の内ふて戸
仁須の人ハよく農
業を勤り且此國ハ
五穀綿畑草等の
外ハ銀銅鉛水銀の
産物ハ里堀の
人ハ専ら常食ハセ
て都て荒火屋邊
り阿非利加の海岸

美以人氏を佛
西帝の権威は
了魔くその衆は
うねる東御寺
都の間

ハ東の多き惠あり
○阿非利加の内地
ハ西洋人の詮索ハ
もいさど委しく分
らむ越尾比屋まど
の人ハ最も教ふく
しく人情甚だ粗
おやむくといふ更
の黒奴ハ人を殺て
肉を喰ふより

王「名戸仁次」戸里
城馬留加國「し
南「多山國大略
回「夷狄人表ハ
去留吉尔「名あ



砂漠ハ入口の景
ハ山ハ草の茂るた

わ「実多紀支記子
名「阿非利加の内地
の標ハ知れずしん大
染「記名國境南
「越尾比屋

るおを譬へバ大海
不嶋の如く如く往
来の人ハこの草を
駱駝の飼料とする
あり但一人の食物
ハ數箇月の用意を
かるるらざ又砂
漠ハ雨降らざ
て水ハ不自由あり
十日路も行て始て

信東の系と北東の系
を世界中心の大砂
漠東西一万余里
南北九四百餘里
樹

湧泉不出逢ふ位の
ことあるバ飲水の
野もなれて叶はぬ
ことあり頃を我文
化二年に當り阿非
利加の人二千駱
駝千八百疋を引
砂漠を渡り小折
りも水の乏る更
行逢せざして残ら

昔は人もいぬ砂
の海は北東の系
人ハ駱駝の飼料
を以て北東の系
を以て北東の系
を以て北東の系

を湯死たること
もしや

○麻寺ハ小島
も山水の風景甚

大産物ハ葡萄
酒あり氣候ハ春夏

秋冬大抵同様
病人あどの養生所

不宜一加奈利屋ハ
西班牙の領分あり

波をく砂漠離

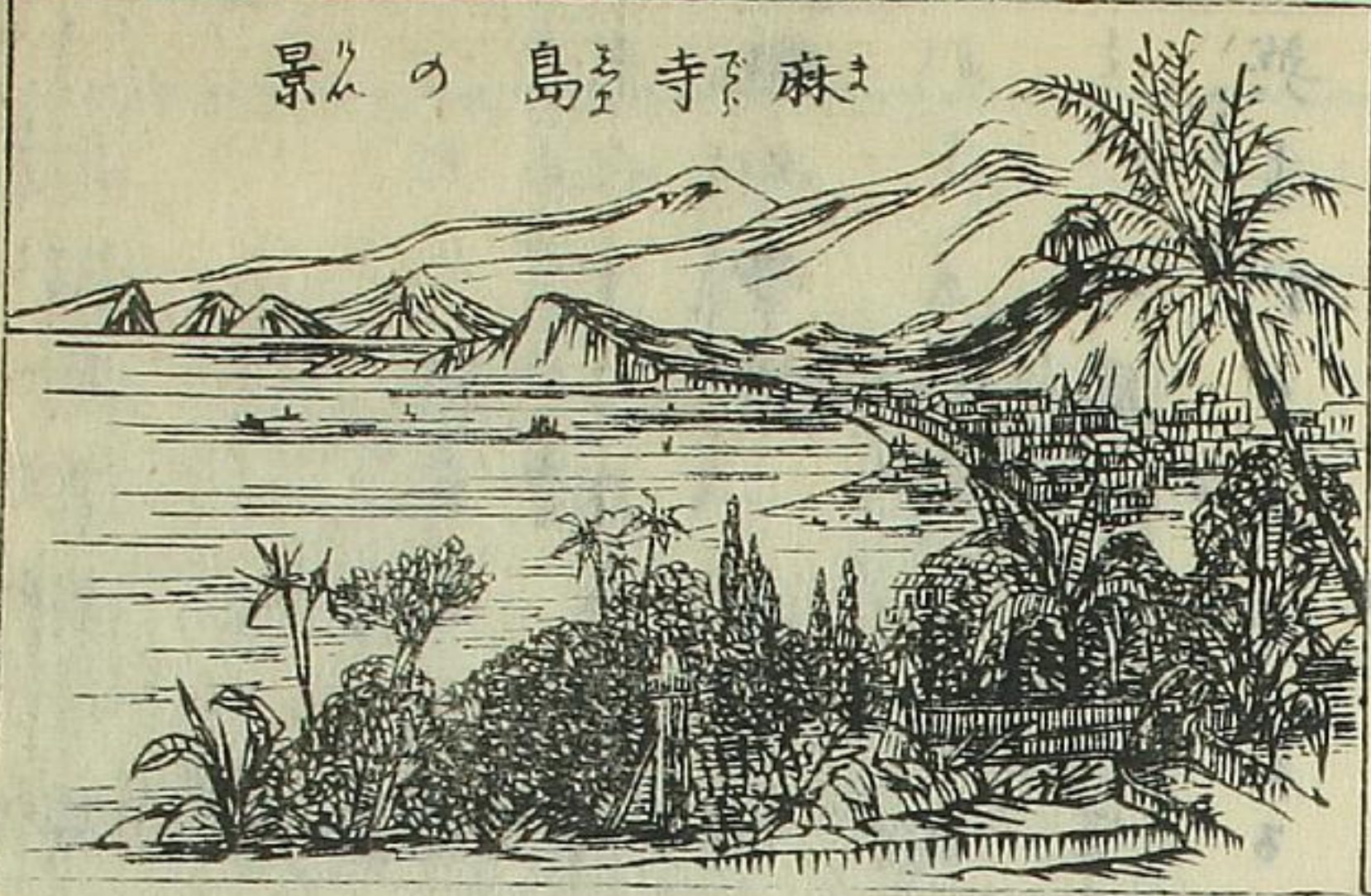
をく平水の海

出をく麻寺塔を

支配をく葡萄牙葡

葡の業酒の多心

寺の模様ハ大抵麻
寺小同ト



て名音の記出地ハ

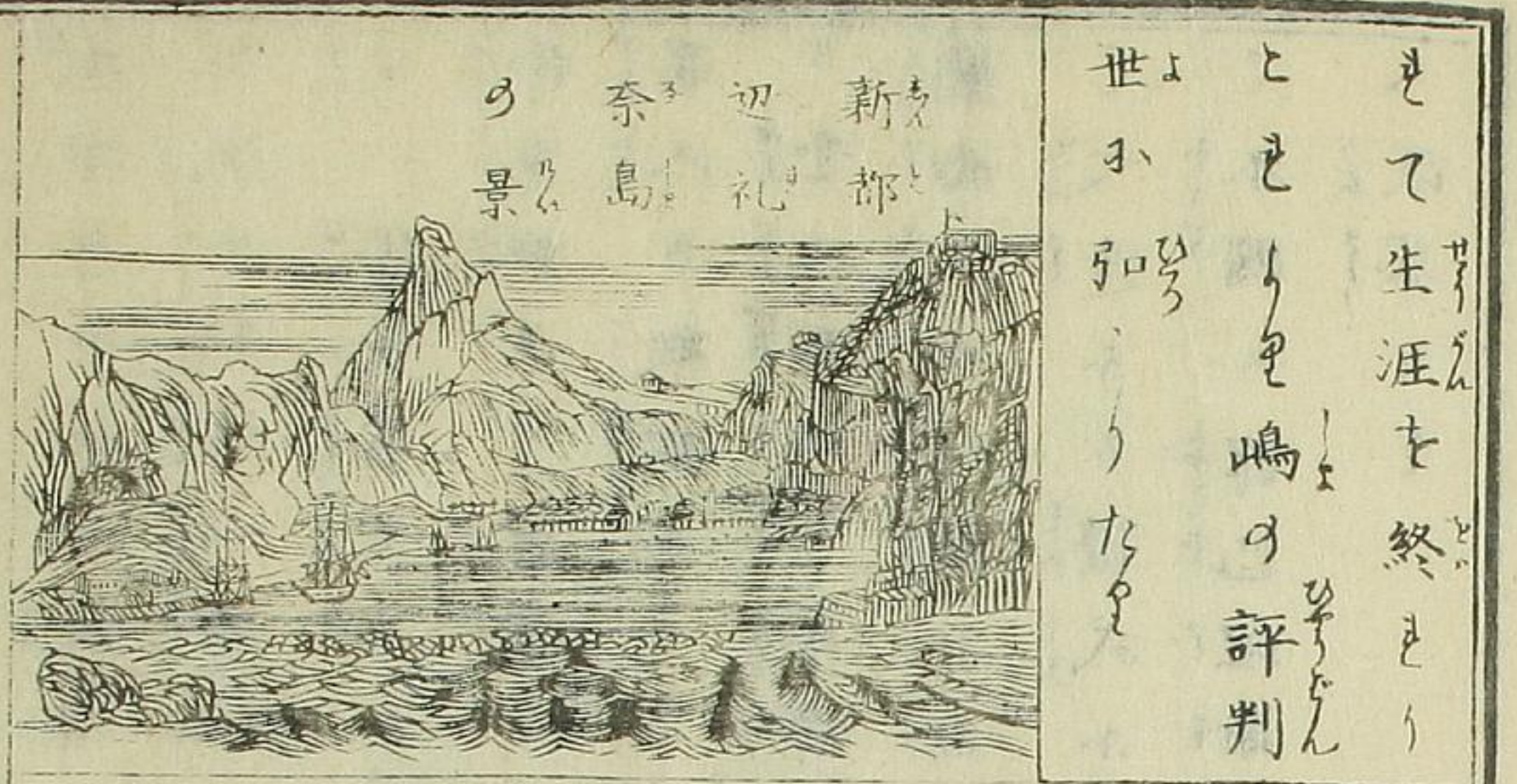
て地乃名不同

麻寺酒悦人

人麻寺隣

不里屋ハ加

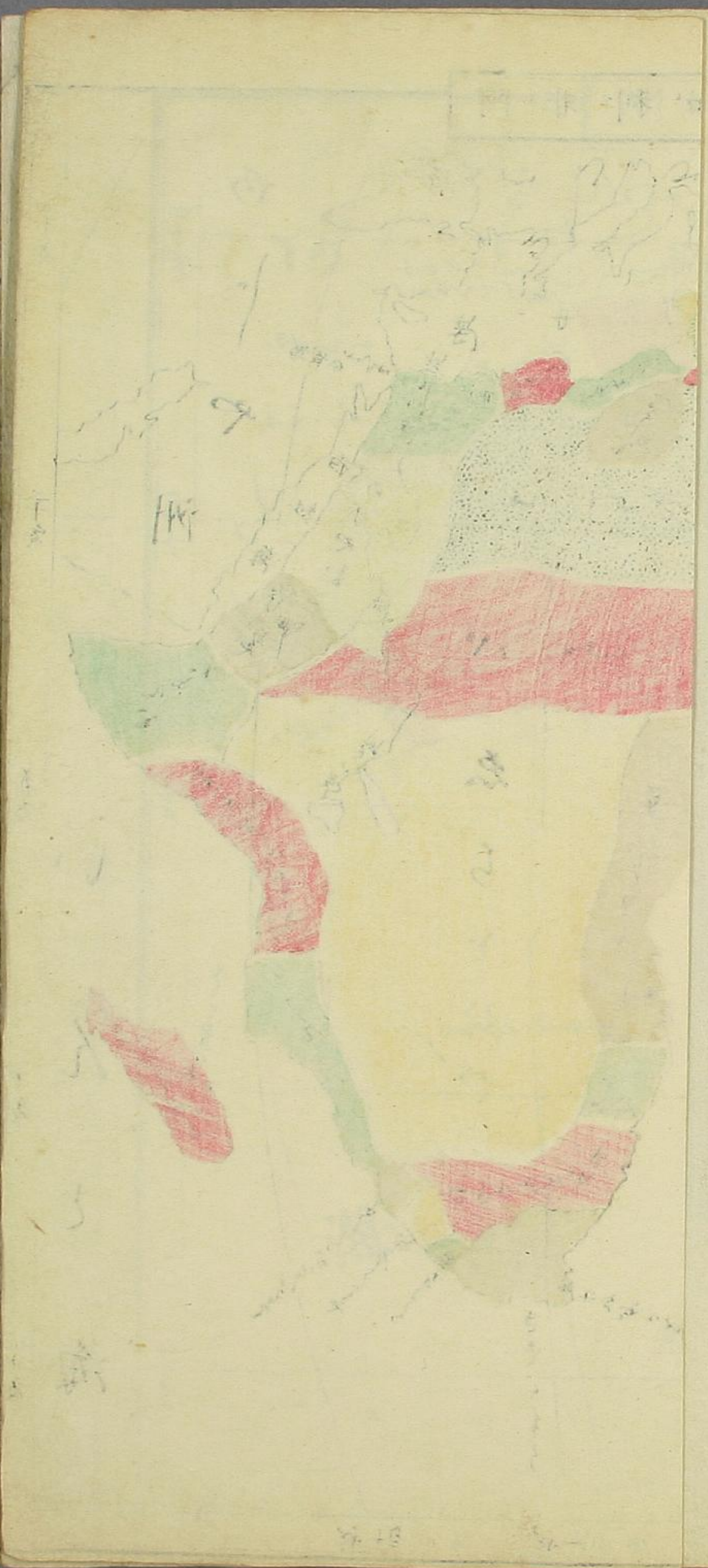
○新都邊禮奈ハ英
 領分あり千
 八百十五年即ち我
 文化十二年の頃佛
 蘭西帝第一世が不
 礼をん和阿戸留樓
 といふ處におわて
 英吉利の將軍ある
 せんといふと戦ふて
 敗北し此島を統さ



きて生涯を終る
 ときり里嶋の評判
 世小引りたる

の甲斐の北場一平
 少将の教四時
 春の色少鳥の歌
 の名え少の
 河ある西の廻、輪留

田嶋「福多田以南」
 淋「比新都邊禮」
 奈嶋「名所」
 奈嶋「佛茶西」
 奈嶋「奈保禮田」

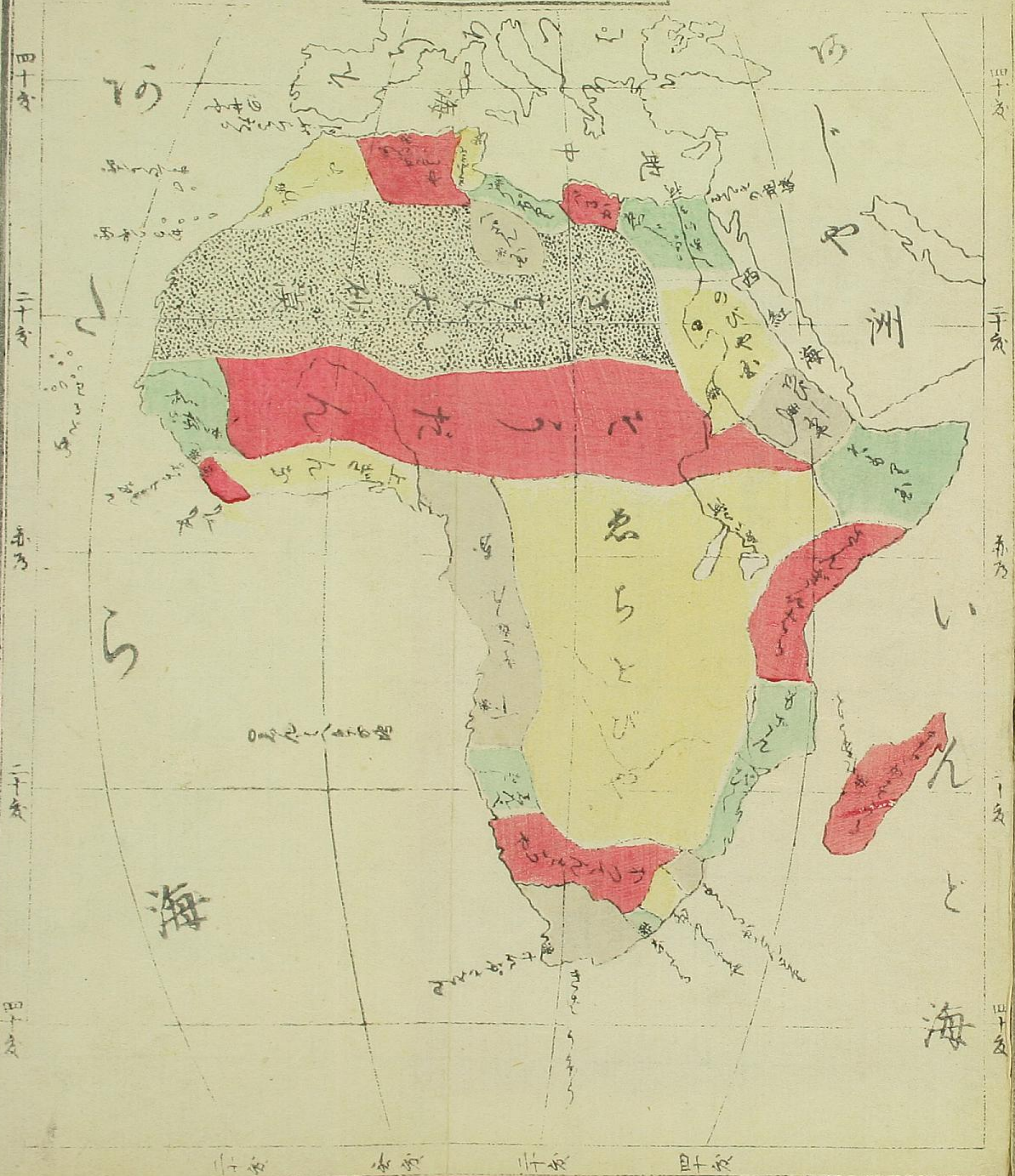


一 年 五 月 五 日 小
 命 を 終 せ 死 後 小
 罪 人 の 取 扱 あ り
 千 八 百 四 十 年 佛
 蘭 西 人 の 心 願 小 由
 大 造 亦 禮 式 小
 本 國 の 都 巴 理 斯
 改 葬 日 也

阿 戸 留 樓 の 戮 小 運
 命 存 け 亦 死 流
 罪 人 由 來 小 由
 嶋 の 名 譽 亦 中 小 由
 孝

日 出 國 語 集 二

阿非利加洲



ア

大造なる禮式
本國の都巴理斯
改葬日

此の在りて
アフリカ

同心所

岡田氏

010190533978

竹田園